



詳細設定ガイド

無線 LAN ブロードバンド ルータ




CG-WLBARGSX




本書の読み方

本書で使用している記号や表記には、次のような意味があります。

●記号について

	人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。
	操作中に気を付けていただきたい内容です。必ずお読みください。
	補足事項や、参考となる情報を説明しています。

●表記について

本商品	CG-WLBARGSX のことです。
「 」－「 」－「 」	「 」で囲まれた項目を順番に選択することを示します。
[]	[] で囲んである文字は画面上のボタンを示します。 例：  → [OK]
Windows Vista	Microsoft® Windows Vista™ Home Basic、 Microsoft® Windows Vista™ Home Premium、 Microsoft® Windows Vista™ Business および Microsoft® Windows Vista™ Ultimate
Windows XP	Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system およびMicrosoft® Windows® XP Professional operating system
Windows 2000	Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system
Windows Me	Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system
Windows 98SE	Microsoft® Windows® 98 Second Edition operating system

※本書では、複数の OS を「Windows Vista/XP」のように併記する場合があります。

●イラスト、画面について

本書に記載のイラストや画面は、実際と多少異なることがあります。

目次

本書の読み方	2
●記号について	2
●表記について	2
●イラスト、画面について	2
PART1 こんなときにはこの設定	5
設定画面を起動するには	5
●パソコンのTCP/IPを設定する	5
●Windows Vistaで利用する	5
●Windows XPで利用する	7
●Windows 2000で利用する	10
●Windows Me/98SEで利用する	14
●Webブラウザの設定をする	18
●パソコンと本商品を接続する	19
●設定画面を起動する	21
●Macintoshで利用する	21
無線LANセキュリティを設定するには	22
●本商品で設定できるセキュリティ機能	22
●SSIDを設定する	23
●ステルスAPを設定する	24
●アクセス制限を設定する	25
●暗号化を設定する	26
ネットワークゲームをするには	29
●UPnPに対応しているネットワークゲームの場合	29
●UPnPに対応していないネットワークゲームの場合	29
音声／ビデオチャットなどのツールを使うには	30
●NetMeeting	30
●MSN Messenger(Ver.7.0以降)／Windows Live Messenger(Ver.8.0)	31
ポートを開放するには	32
●バーチャルサーバを使用する	32
外部にネットワークカメラ(カメラサーバ)の映像を公開するには	33
マルチPPPoEで2つの接続先を使い分けるには	34
●プロバイダとフレッツ・スクウェアに接続する	34
●複数固定IPサービスを利用するには(Unnumbered IP／Unnumbered IP + Private IP)	37
ダイナミックDNSを使用してURLで接続するには	39
無線アクセスポイントとして使用するには	41
本商品のログイン名(ユーザ名)、パスワードを変更したいときは	42
最新のファームウェアを入手してアップデートしたいときは	43
●ファームウェアのアップデートに失敗した	44
本商品の設定のバックアップを取る／元に戻すときは	45
●バックアップを取る	45
●元に戻す	46
本商品を再起動するには	47
●電源を一度抜く	47
●設定画面を使う	47

本商品を工場出荷時の状態(初期値)に戻すには	48
●初期化ボタンを使う	48
●設定画面を使う	48
パソコンのIPアドレスを調べたいときは	49
●Windows Vistaの場合	49
●Windows XP/2000の場合	49
●Windows Me/98SEの場合	49

PART2 設定画面を見てみよう 50

設定画面の全体構成について	50
設定画面の各機能	51
●CG-WLBARGSX(トップページ)	51
●モード	52
●簡単設定	52
●WAN側設定(インターネット)	53
●LAN側設定	63
●セキュリティ設定	75
●詳細設定	80
●管理	84
●ステータス	88
MACアドレスについて	90
おことわり	90

こんなときにはこの設定

このPARTでは、本商品をより便利に活用していただくための設定方法について説明します。これらはすべてパソコンがすでにネットワークに接続済みの状態であることを前提とした説明となりますので、まだ接続していない場合は、付属の「お使いの手引き」または本書の「パソコン、モデムと本商品を有線で接続する」(P.20) の手順を行ってからお読みください。

設定画面を起動するには

.....

本商品の設定画面を使用するにはWebブラウザが必要です。また、設定時には本商品に接続されているパソコンのうちの1台から設定作業を行います。WebブラウザにはInternet Explorer 5.5以降またはSafari 1.2以降をご利用ください。そのほかのWebブラウザでは、正常に設定できない場合があります。

●パソコンのTCP/IPを設定する

本商品の設定画面を起動するには、接続するパソコンのネットワークの設定が次のようになっている必要があります。

- ・TCP/IPの設定がIP自動取得になっていること
- ・ネットワークアダプタが正常に動作していること

次の手順では、パソコンのTCP/IPの設定方法とネットワークアダプタの確認方法をご紹介します。この手順はLANケーブルを使って本商品とパソコンを接続する場合を例としています。



Mac OS X (10.4以降)、Safari 1.2以降をお使いの場合は、コレガホームページ (<http://corega.jp/>) から「サポート情報」－「各種マニュアル」－「ブロードバンドルータ」の順に選択し、補足説明書「Mac OS X (10.3以降) での設定ユーティリティへのアクセス方法」をご覧ください (2007年10月現在)。

URL : <http://corega.jp/support/manual/router.htm>

●Windows Vistaで利用する



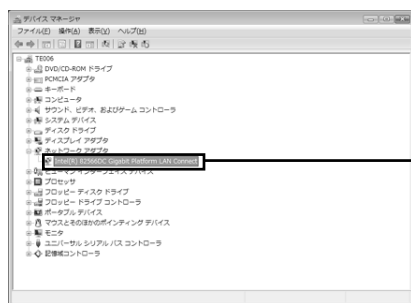
この作業は「コンピュータの管理者」または同等の権限をもつユーザ名でログオンして行ってください。ユーザ権限については、OSの取扱説明書をご覧ください。

■ネットワークアダプタの状態を確認する

パソコンに取り付けられたネットワークアダプタが正常に動作しているか、「デバイスマネージャ」で確認します。

- 1 「スタート」をクリックし、「コンピュータ」を右クリックして「プロパティ」を選択します。
- 2 「デバイスマネージャ」をクリックします。
- 3 「ユーザー アカウント制御」画面が表示されますので、「続行」をクリックします。
- 4 「ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。

- 5 ネットワークアダプタの名称が表示されていることを確認します。



ネットワークアダプタ

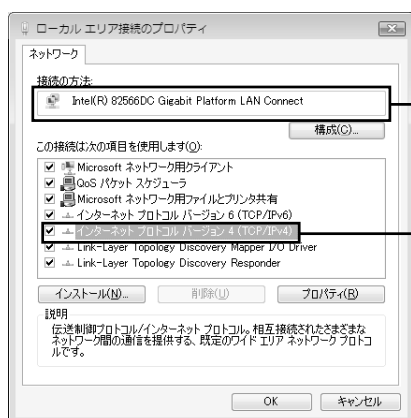
※実際に表示される名称は、ご使用のネットワークアダプタのメーカー、機種によって異なります。



「×」や「！」マークが表示されている場合、ネットワークアダプタは正常に動作していません。ネットワークアダプタの取扱説明書をご覧ください、正常な状態にしてください。

■ TCP/IP プロトコルを確認する

- 1 「スタート」－「コントロールパネル」をクリックします。
- 2 「ネットワークとインターネット」－「ネットワークと共有センター」の順に（クラシック表示にしている場合は「ネットワーク共有センター」を）クリックします。
- 3 画面左側から「ネットワーク接続の管理」をクリックします。
- 4 「ローカル エリア接続」（無線では「ワイヤレス ネットワーク接続」）を右クリックし、[プロパティ] をクリックします。
- 5 「ユーザー アカウント制御」画面が表示されますので、[続行] をクリックします。
- 6 「この接続は次の項目を使用します」の一覧から「インターネット プロトコル バージョン 4 (TCP/IPv4)」をダブルクリックします。

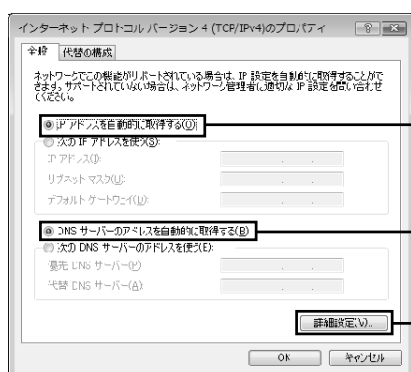


ネットワークアダプタ

※実際に表示される名称は、ご使用のネットワークアダプタのメーカー、機種によって異なります。

ダブルクリックします。

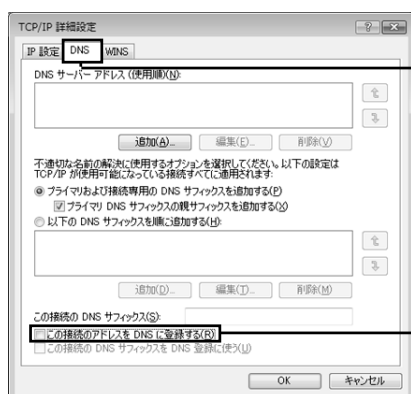
- 7 「IP アドレスを自動的に取得する」と「DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する」が選択されていることを確認し、[詳細設定] をクリックします。



①この項目を選択します。

②[詳細設定]をクリックします。

- 8 「TCP/IP詳細設定」画面の「DNS」タブを選択し、「この接続のアドレスをDNSに登録する」のチェックを外します。



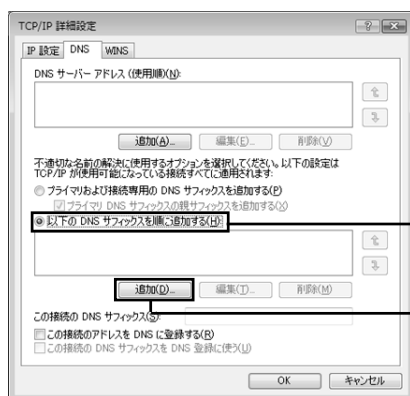
①ここを選択します。

②この項目のチェックを外します。



注意

プロバイダからドメイン名も指定されている場合は、「以下の DNS サフィックスを順に追加する」を選択し、「追加」をクリックして指定されたドメインを入力してください。



①この項目を選択します。

②[追加]をクリックして指定されたドメイン名を入力します。

- 9 [OK] をクリックし、「インターネット プロトコルバージョン 4 (TCP/IP) のプロパティ」－「ローカル エリア接続のプロパティ」（無線の場合は「ワイヤレス ネットワーク接続のプロパティ」）の順に [OK] をクリックします。

次に「Web ブラウザの設定をする」(P.18) に進みます。

●Windows XPで利用する



注意

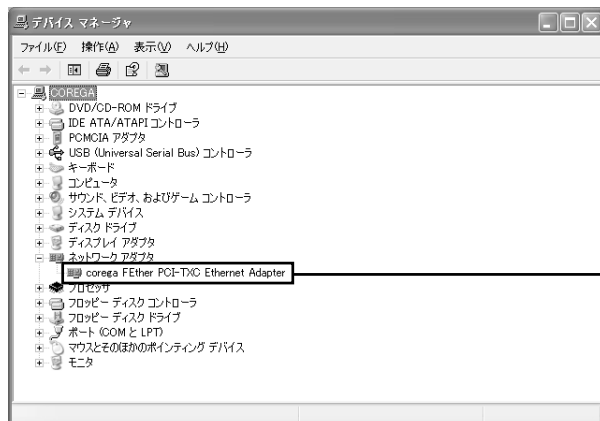
この作業は「コンピュータの管理者」または同等の権限をもつユーザ名でログオンして行ってください。ユーザ権限については、OS の取扱説明書をご覧ください。

■ネットワークアダプタの状態を確認する

パソコンに取り付けられたネットワークアダプタが正常に動作しているか、「デバイスマネージャ」で確認します。

- 1 「スタート」－「マイコンピュータ」を右クリックし、「プロパティ」を選択します。
- 2 「ハードウェア」タブを選択し、「デバイスマネージャ」をクリックします。
- 3 「デバイスマネージャ」の「ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。

- 4 ネットワークアダプタの名称が表示されていることを確認します。



ネットワークアダプタ

※実際に表示される名称は、ご使用のネットワークアダプタのメーカー、機種によって異なります。



「X」や「！」マークが表示されている場合、ネットワークアダプタは正常に動作していません。ネットワークアダプタの取扱説明書をご覧ください、正常な状態にしてください。

- 5 「デバイスマネージャ」を閉じます。

■ TCP/IP プロトコルを確認する

- 1 「スタート」 - 「コントロールパネル」の順に選択します。
- 2 「コントロールパネル」の「ネットワークとインターネット接続」をクリックします。「ネットワークとインターネット接続」が表示されていない場合は、画面左側の「カテゴリの表示に切り替える」をクリックしてください。
- 3 「ネットワーク接続」をクリックします。
- 4 「ローカルエリア接続」を右クリックし、「プロパティ」を選択します。
- 5 「全般」タブの「インターネットプロトコル (TCP/IP)」にチェックが付いているか確認します。



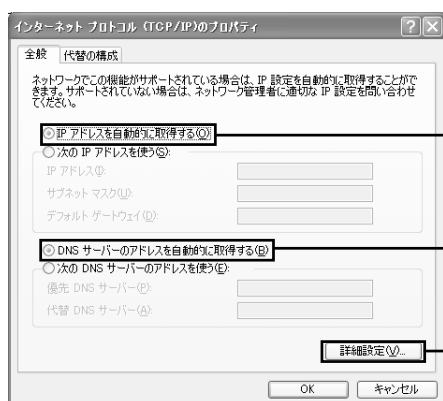
ネットワークアダプタ

※実際に表示される名称は、ご使用のネットワークアダプタのメーカー、機種によって異なります。

チェックが付いていることを確認します。

- 6 「インターネットプロトコル (TCP/IP)」を選択し、[プロパティ] をクリックします。

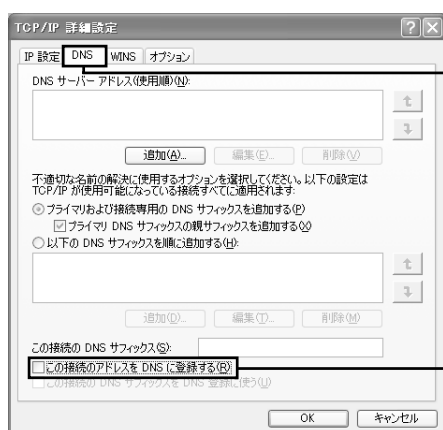
- 7 「全般」タブの「IPアドレスを自動的に取得する」と「DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する」を選択し、「詳細設定」をクリックします。



①この項目を選択します。

②「詳細設定」をクリックします。

- 8 「TCP/IP 詳細設定」画面の「DNS」タブを選択し、「この接続のアドレスをDNSに登録する」のチェックを外します。



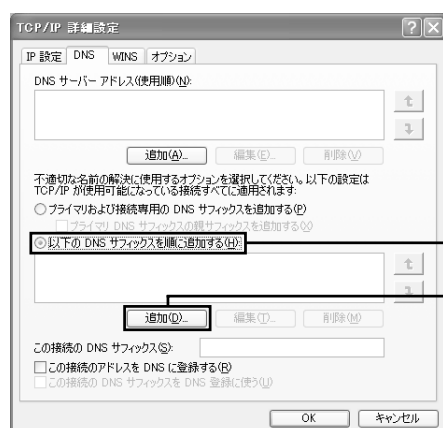
①ここを選択します。

②この項目のチェックを外します。



注意

プロバイダからドメイン名も指定されている場合は、「以下のDNSサフィックスを順に追加する」を選択し、「追加」をクリックして指定されたドメイン名を入力してください。



①この項目を選択します。

②「追加」をクリックして指定されたドメイン名を入力します。

- 9 「TCP/IP 詳細設定」画面の「OK」をクリックします。
- 10 「インターネットプロトコル (TCP/IP) のプロパティ」画面の「OK」をクリックします。
- 11 「ローカルエリア接続のプロパティ」画面の「OK」をクリックします。
- 12 再起動を促すメッセージが表示された場合は再起動します。



メッセージが表示されなかった場合も手動で再起動してください。

次に「Web ブラウザの設定をする」(P.18)に進みます。

●Windows 2000で利用する

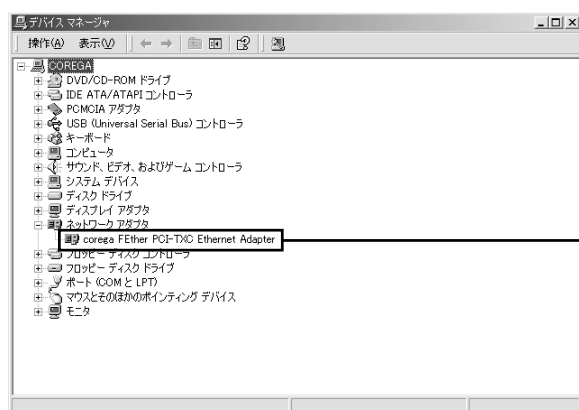


この作業は「Administrator」または同等の権限を持つユーザ名でログインして行ってください。
ユーザ権限については、OS の取扱説明書をご覧ください。

■ネットワークアダプタの状態を確認する

パソコンに取り付けられたネットワークアダプタが正常に動作しているか、「デバイスマネージャ」で確認します。

- 1 デスクトップにある「マイコンピュータ」を右クリックし、「プロパティ」を選択します。
- 2 「ハードウェア」タブを選択し、「デバイスマネージャ」をクリックします。
- 3 「デバイスマネージャ」の「ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。
- 4 ネットワークアダプタの名称が表示されていることを確認します。



ネットワークアダプタ

※実際に表示される名称は、ご使用のネットワークアダプタのメーカー、機種によって異なります。

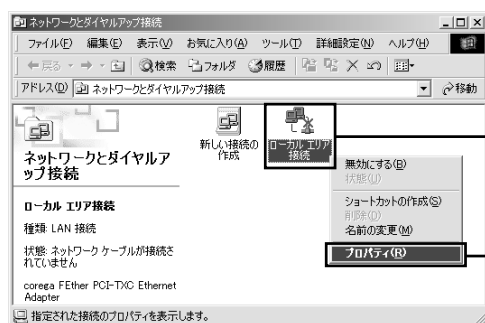


「×」や「！」マークが表示されている場合、ネットワークアダプタは正常に動作していません。
ネットワークアダプタの取扱説明書をお読みになり、正常な状態にしてください。

- 5 「デバイスマネージャ」を閉じます。

■ TCP/IP プロトコルを確認する

- 1 「スタート」－「設定」－「ネットワークとダイヤルアップ接続」をクリックします。
- 2 「ローカルエリア接続」を右クリックし、「プロパティ」を選択します。

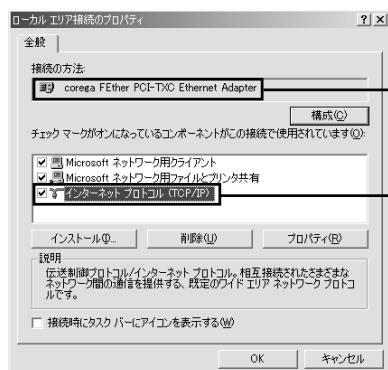


①「ローカルエリア接続」を右クリックします。

②「プロパティ」を選択します。

※「ローカルエリア接続」の名称はご使用のパソコンの環境により異なる場合があります。

- 3 「インターネットプロトコル (TCP/IP)」が有効になっていることを確認します。



ネットワークアダプタ

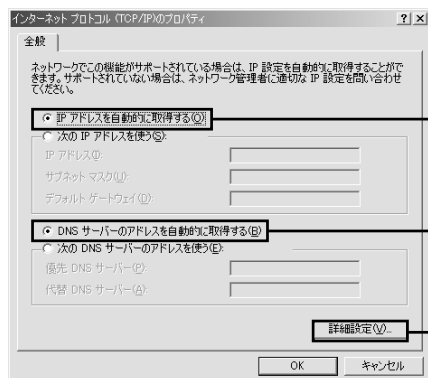
※実際に表示される名称は、ご使用のネットワークアダプタのメーカ、機種によって異なります。

チェックが付いていることを確認します。



「インターネットプロトコル (TCP/IP)」が一覧にない場合は、「TCP/IP をインストールする」(P.13) をご覧ください。

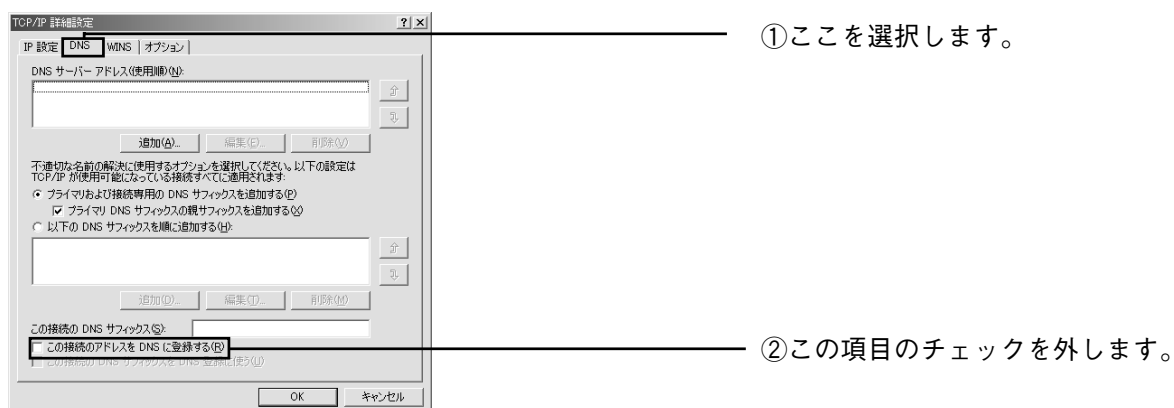
- 4 「インターネットプロトコル (TCP/IP)」を選択し、[プロパティ] をクリックします。
- 5 「IPアドレスを自動的に取得する」と「DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する」を選択し、[詳細設定] をクリックします。



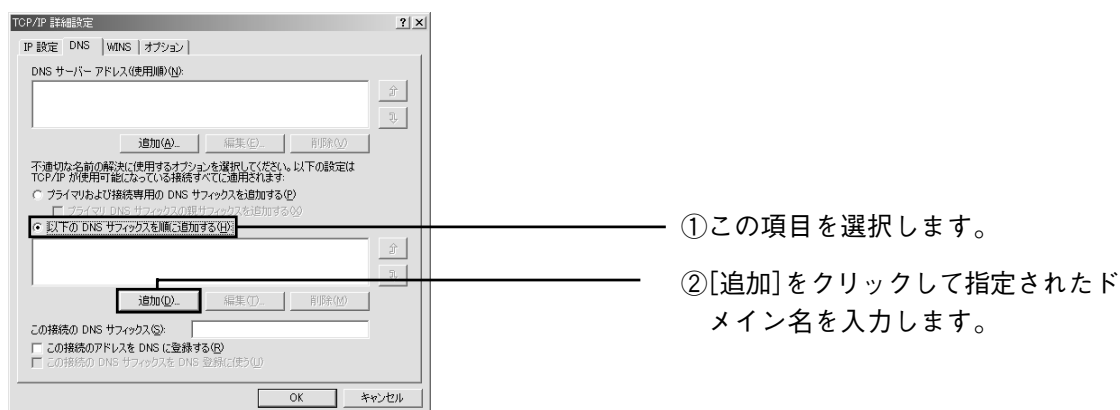
①この項目を選択します。

②[詳細設定]をクリックします。

- 6 「TCP/IP 詳細設定」画面の「DNS」タブを選択し、「この接続のアドレスをDNSに登録する」のチェックを外します。



注意 プロバイダからドメイン名も指定されている場合、「以下のDNSサフィックスを順に追加する」を選択し、[追加] をクリックして指定されたドメイン名を入力してください。



- 7 「TCP/IP 詳細設定」画面の [OK] をクリックします。
- 8 「インターネットプロトコル (TCP/IP) のプロパティ」画面の [OK] をクリックします。
- 9 「ローカルエリア接続のプロパティ」画面の [OK] をクリックします。
- 10 再起動を促すメッセージが表示された場合は再起動します。



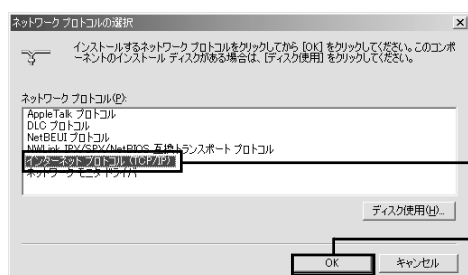
メッセージが表示されなかった場合も手動で再起動してください。

次に「Web ブラウザの設定をする」(P.18) に進みます。

■ TCP/IP をインストールする

TCP/IP がインストールされていない場合は、次の手順でインストールしてください。

- 1 「スタート」－「設定」－「ネットワークとダイヤルアップ接続」をクリックします。
- 2 「ローカルエリア接続」を右クリックし、「プロパティ」を選択します。
- 3 「ローカルエリア接続のプロパティ」の「インストール」をクリックします。
- 4 「ネットワークコンポーネントの種類の選択」が表示されたら「プロトコル」を選択し、「追加」をクリックします。
- 5 「ネットワークプロトコルの選択」が表示されたら「インターネットプロトコル (TCP/IP)」を選択し、「OK」をクリックします。



①「インターネットプロトコル (TCP/IP)」を選択します。

②[OK]をクリックします。

- 6 「ローカルエリア接続のプロパティ」の「インターネットプロトコル (TCP/IP)」が有効になっていることを確認し、「OK」をクリックして画面を閉じます。
- 7 再起動を促すメッセージが表示された場合は再起動します。



メッセージが表示されなかった場合も手動で再起動してください。

インストールが完了したら、「TCP/IP プロトコルを確認する」の手順 4 (P.11) からの設定を行ってください。

●Windows Me／98SEで利用する

■ネットワークアダプタの状態を確認する

パソコンに取り付けられたネットワークアダプタが正常に動作しているか、「デバイスマネージャ」で確認します。

- 1 デスクトップの「マイコンピュータ」を右クリックし、「プロパティ」を選択します。
- 2 「デバイスマネージャ」タブをクリックし、表示されたハードウェアデバイスの一覧から「ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。
- 3 ネットワークアダプタの名称が表示されていることを確認します。



ここを選択します。

ネットワークアダプタ

※実際に表示される名称は、ご使用のネットワークアダプタのメーカー、機種によって異なります。



- ・「X」や「！」マークが表示されている場合、ネットワークアダプタは正常に動作していません。ネットワークアダプタの取扱説明書をお読みにになり、正常な状態にしてください。
- ・「Microsoft 仮想プライベートネットワークアダプタ」、「ダイヤルアップアダプタ」などのアダプタ名が表示されていることがありますが、これらは本商品で使用するネットワークアダプタと関係ありません。

■TCP/IP プロトコルを確認する

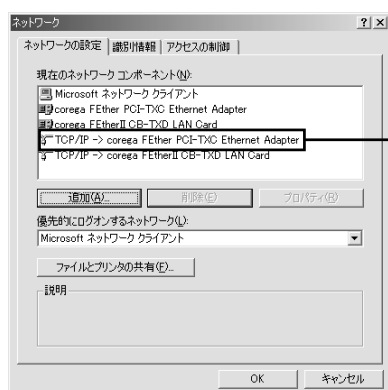
ここでは例としてWindows Meを使用していますが、Windows 98SEをご使用の場合も手順は同様です。

- 1 「スタート」－「設定」－「コントロールパネル」の順に選択します。
- 2 「コントロールパネル」の「ネットワーク」をダブルクリックします。



Windows Meの場合、よく使うコントロールパネルのオプションだけが表示されている場合は、「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する。」をクリックすると、「ネットワーク」が表示されます。

- 3 「ネットワークの設定」タブの「現在のネットワークコンポーネント」欄に「TCP/IP→XXXXX(ネットワークアダプタ名)」が表示されていることを確認します。



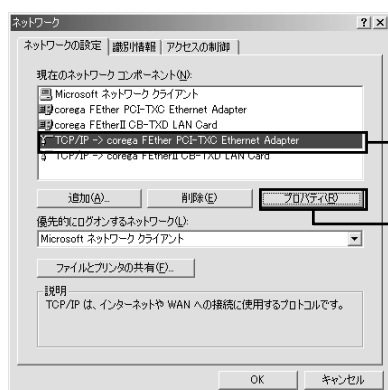
※画面は例です。

- ・「TCP/IP→」の横に表示される名称は、ご使用のネットワークアダプタのメーカー、機種によって異なります。
- ・ダイヤルアップアダプタがない場合は「インターネットプロトコル(TCP/IP)」、「TCP/IP」などと表示される場合もあります。



「TCP/IP→XXXXX(ネットワークアダプタ名)」が表示されていなかった場合は、「TCP/IPをインストールする」(P.17)をご覧ください。

- 4 「現在のネットワークコンポーネント」の一覧から「TCP/IP→XXXXX(ネットワークアダプタ名)」を選択し、[プロパティ] をクリックします。

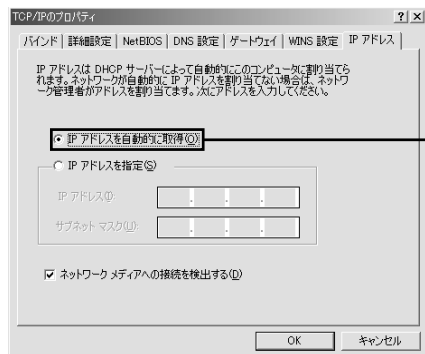


- ① ご使用のネットワークアダプタ名が表示されているものを選択します。
- ② [プロパティ] をクリックします。



「TCP/IP→XXXXX(ネットワークアダプタ名)」が複数表示されている場合は、ご使用のネットワークアダプタを選択します。

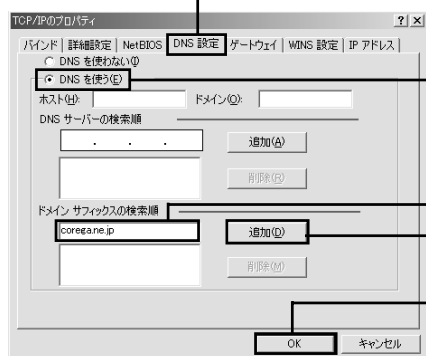
5 「IP アドレス」 タブの「IP アドレスを自動的に取得」を選択します。



この項目を選択します。



注意 プロバイダからドメイン名も指定されている場合、「DNS 設定」タブの「DNS を使う」を選択し、「ドメインサフィックスの検索順」の欄に指定されたドメイン名を入力して[追加]をクリックしてください。



①「DNS設定」タブを選択します。

②「DNSを使う」を選択します。

③ドメイン名を入力します。

※画面は例です。実際にはプロバイダから指定されたドメイン名を入力してください。

④[追加]をクリックします。

⑤[OK]をクリックします。

6 「TCP/IP のプロパティ」画面の [OK] をクリックします。

7 「ネットワーク」画面の [OK] をクリックします。



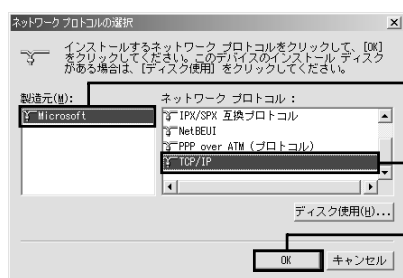
メモ WindowsのOS用ディスクを入れるようにダイアログが表示された場合は、CD-ROMドライブ（またはフロッピーディスクドライブ）にWindowsのOS用ディスクをセットし、メッセージに従って操作します。操作後、再起動を促すメッセージが表示されたら再起動します。

次に「Web ブラウザの設定をする」(P.18)に進みます。

■ TCP/IP をインストールする

TCP/IP がインストールされていない場合は、次の手順でインストールしてください。

- 1 「スタート」－「設定」－「コントロールパネル」の順に選択します。
- 2 「コントロールパネル」の「ネットワーク」をダブルクリックします。
- 3 「ネットワーク」の「追加」をクリックします。
- 4 「ネットワークコンポーネントの種類の選択」で「プロトコル」を選択し、「追加」をクリックします。
- 5 「ネットワークプロトコルの選択」の「製造元」から「Microsoft」を選択し、「ネットワークプロトコル」の一覧から「TCP/IP」を選択して「OK」をクリックします。

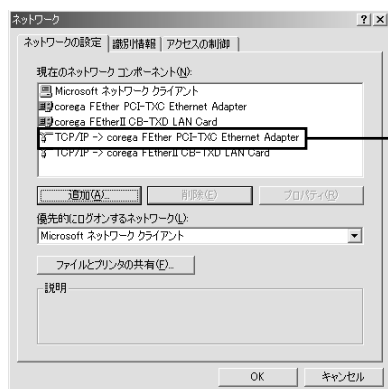


①「Microsoft」を選択します。

②「TCP/IP」を選択します。

③「OK」をクリックします。

- 6 「現在のネットワークコンポーネント」の一覧に「TCP/IP → XXXXX (ネットワークアダプタ名)」が追加されていることを確認します。



※画面は例です。

- ・「TCP/IP →」の横に表示される名称は、ご使用のネットワークアダプタのメーカ、機種によって異なります。
- ・ダイヤルアップアダプタがない場合は「インターネットプロトコル (TCP/IP)」、「TCP/IP」などと表示される場合もあります。

- 7 「OK」をクリックして「ネットワーク」画面を閉じると、再起動を促すメッセージが表示されますので再起動します。



- ・メッセージが表示されなかった場合も手動で再起動してください。
- ・WindowsのOS用ディスクを入れるようにダイアログが表示された場合は、CD-ROMドライブ（またはフロッピーディスクドライブ）にWindowsのOS用ディスクをセットし、メッセージに従って操作します。操作後、再起動を促すメッセージが表示されたら再起動します。

インストールが完了したら、「TCP/IP プロトコルを確認する」の手順4 (P.15) からの設定を行ってください。

●Webブラウザの設定をする

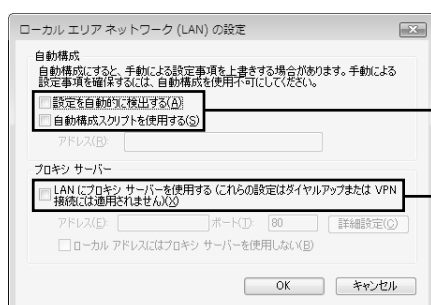
本商品を利用できるように Web ブラウザの設定を行います。ここでは Internet Explorer 7 の場合を例に説明します。そのほかの Web ブラウザの場合は、Web ブラウザのヘルプなどをご覧ください、設定してください。

- 1 Internet Explorer を起動し、「ツール」－「インターネットオプション」をクリックします。
- 2 「インターネットオプション」が表示されたら「接続」タブを選択します。



このとき「ダイヤルアップと仮想プライベートネットワークの設定」で「ダイヤルしない」が選択されていることをご確認ください。

- 3 「LAN の設定」をクリックします。
- 4 「ローカルエリアネットワーク (LAN) の設定」の「設定を自動的に検出する」、「自動構成スクリプトを使用する」、「LAN にプロキシサーバーを使用する」のチェックを外します。



この項目のチェックを外します。

- 5 「OK」をクリックします。
- 6 「インターネットオプション」の「OK」をクリックします。

次に「パソコンと本商品を接続する」(P.19)に進みます。

●パソコンと本商品を接続する

■本商品を設置する場所について

- ・ 付属の「お使いの手引き」をご覧ください、使用時の注意などについてご確認ください。
- ・ 本商品の側面にある通気口は、放熱のため塞がないでください。

〈設置に適した場所〉

- ・ 水平で落下のおそれがない場所（机の上など）
- ・ 風通しのよい涼しい場所

〈設置に適さない場所〉

- ・ 直射日光が当たる場所
- ・ 暖房器具の近くなど
- ・ 高温多湿でホコリの多い場所
- ・ パソコンやモデムなど、発熱する機器の上

■本商品の電源を入れるには

〈本商品の電源の取り方〉

本商品の電源は、たこ足配線などを避け、ほかの機器と別系統で取るようにしてください。必ず本商品に同梱の専用ACアダプタを使用し、AC100Vの電源コンセントに接続してください。それ以外のACアダプタやコンセントを使用すると、発熱による発火や感電のおそれがあります。

〈本商品の電源の入れ方／切り方〉

本商品背面のDCジャックにACアダプタのDCプラグを接続し、電源プラグを電源コンセントに差し込むと電源が入ります。ACアダプタの電源プラグを電源コンセントから抜くと電源が切れます。



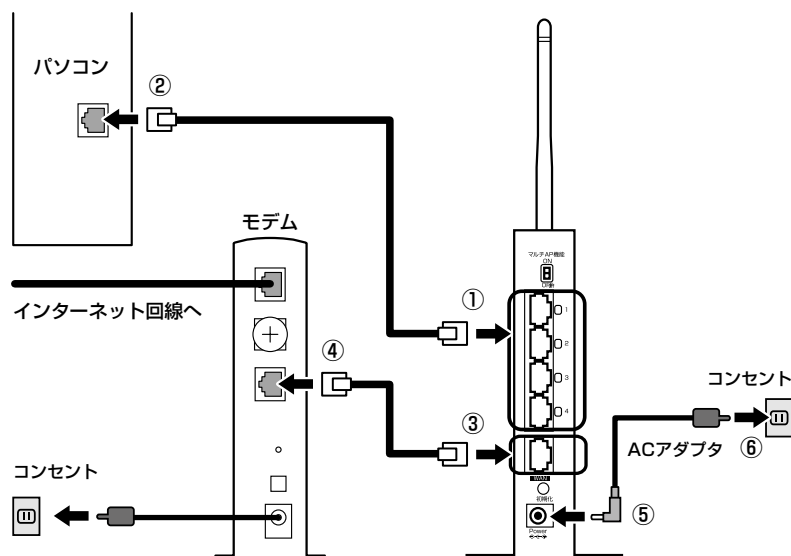
- ・ 本商品には電源スイッチがありません。電源プラグを電源コンセントに接続した時点で、電源が入りますのでご注意ください。
- ・ ACアダプタの電源プラグを電源コンセントに差し込んだままDCプラグを抜かないでください。感電事故を引き起こすおそれがあります。
- ・ 必ず本商品に同梱の専用ACアダプタをお使いください。同梱の専用ACアダプタ以外は本商品に接続しないでください。
- ・ 本商品に同梱の専用ACアダプタは、本商品以外に接続しないでください。

■パソコン、モデムと本商品を有線で接続する

有線接続をする場合や2台目以降のパソコンを設定する場合は、本商品とモデム・パソコンなど、ネットワーク接続する機器をLANケーブルで接続します。



- ・本商品とパソコンを接続するLANケーブルの長さは100m以内にしてください。
- ・本商品とパソコンを接続するLANケーブルは、100BASE-TXで接続する場合はカテゴリ5以上、10BASE-Tで接続する場合はカテゴリ3以上のLANケーブルを使用してください。
- ・無線での接続方法は、付属の「お使いの手引き」をご覧ください。



- 1 本商品、モデムまたは回線終端装置、パソコンなどネットワーク接続する機器の電源をすべて切るか、電源コンセントから抜きます。
- 2 本商品背面のLANポートにLANケーブルを接続します (①)。
- 3 LANケーブルのもう一方をパソコンのLANポートに接続します (②)。
- 4 本商品背面のWANポートにLANケーブルを接続します (③)。
- 5 モデムまたは回線終端装置のネットワークポート(RJ-45)にLANケーブルのもう一方を接続します (④)。



モデムのポート名は「LAN」「PC」「パソコン」「ENET」「Ethernet」など、機種によって異なります。

- 6 モデムまたは回線終端装置の電源を入れます。
- 7 本商品背面のDCジャックに専用ACアダプタを接続します (⑤)。
- 8 本商品の専用ACアダプタをコンセントに接続し、本商品の電源を入れます (⑥)。
- 9 本商品前面のPower LEDが点灯し、Status LEDが点灯(点滅)→消灯に変わり、本商品が起動したことを確認します。



本商品が起動するまでにおよそ2分程度かかります。本商品の起動が完了するまでしばらくお待ちください。

- 10 本商品の起動後、パソコンの電源を入れます。
- 11 本商品背面のLAN LEDのうち、LANケーブルを接続したポートのLANポートLEDが点灯(または点滅)していることを確認します。

●設定画面を起動する



- ・本商品を設定する場合には、本商品と設定用パソコンのみを接続して設定することをお勧めします。
- ・設定用パソコンでウイルス駆除ソフト、ファイアウォールソフトなどのセキュリティソフトが起動していると、本商品の設定に失敗することがあります。一時的にセキュリティソフトを停止させて本商品の設定を行い、設定作業が終了してから再度起動させてください。セキュリティソフトの停止・起動の方法は、セキュリティソフトの取扱説明書をご覧ください。

- 1 本商品に接続したパソコンで、Internet Explorer を起動します。



このとき手順3の画面が表示された場合は、そのまま手順3へお進みください。

- 2 アドレス入力欄に「192.168.1.1」と入力し、キーボードのEnterキーを押します。



ルータ機能が「無効」に設定されている場合や、本商品のLAN側のIPアドレスを変更されている場合は、変更後のIPアドレスを入力してください。また、Internet Explorerでお気に入りの登録している場合は、お気に入りの「CG-WLBARGSX」をクリックします。

- 3 ユーザ名とパスワードを入力する画面が表示されたら、ユーザ名の欄に「root」と入力し、[ログイン]をクリックします。

①「root」と入力します。

②[ログイン]をクリックします。



- ・工場出荷時の状態では、ユーザ名は「root」に設定されています。パスワードは設定されていません。
- ・ユーザ名、パスワードは変更できます。詳しくは「本商品のログイン名(ユーザ名)、パスワードを変更したいときは」(P.42)をご覧ください。

- 4 設定画面が起動します。

●Macintoshで利用する

Mac OS X (10.4以降)、Safari 1.2以降をご利用の場合は、コレガホームページ (<http://corega.jp/>) から「サポート情報」－「各種マニュアル」－「ブロードバンドルータ」の順に選択し、補足説明書「Mac OS X (10.3以降)での設定ユーティリティへのアクセス方法」をご覧ください(2007年10月現在)。

URL : <http://corega.jp/support/manual/router.htm>

無線LANセキュリティを設定するには

無線LANではデータの通信に電波を利用しているため、電波が届く範囲であれば、通信内容を傍受されたり、不正侵入されるおそれがあります。本商品では、これらの対策として次のようなセキュリティ機能を搭載しています。

●本商品で設定できるセキュリティ機能

【SSID (Service Set Identifier)】

無線LANに接続する機器を識別するネットワークグループ名です。ESSIDと呼ばれることもあります。同じSSIDを持つ無線LAN機器同士でしか通信できないため、独自のSSIDを設定することにより、外部から不正侵入される危険が減少します。

【ステルスAP】

本商品のSSIDを無線LANアダプタから見えなくすることにより、外部から不正侵入される危険が減少します。

【アクセス制限】

本商品に無線LANでアクセスすることができる無線LANアダプタをMACアドレスで制限します。PCデータベースにMACアドレスが登録されていない無線LANアダプタは本商品に接続できなくなります。

【WEP (Wired Equivalent Privacy)】

通信内容を暗号化し、通信内容の傍受を防ぐセキュリティ機能です。仮に通信データを傍受された場合でも、通信内容の復元を容易に行うことができなくなります。64Bit、128Bit、152Bitの3種類があり、ASCII文字（半角英数記号）やHEX（16進数：0～9、a～f）を入力し暗号キーを作成します。

【WPA (Wi-Fi Protected Access)】

通信内容を設定した暗号キーを使って暗号化するセキュリティ機能の一つです。暗号キーは一定時間ごとに変わるTKIPを採用しており、WEPよりも解読されにくくなります。家庭で使用する「WPA-PSK (Personal)」と企業内で使用する「WPA-EAP (Enterprise)」の2種類の設定ができます。

【WPA2 (Wi-Fi Protected Access 2)】

WPA2は、Wi-Fi Allianceが2004年9月に発表したWPAの新しい規格です。米標準技術局（NIST）が定めた暗号化標準の「AES」を採用しており、128～256 Bitの可変調キーを利用した強力な暗号化が可能です。そのほかの仕様についてはWPAとほとんど変わらないので、WPAとWPA2との混在した環境で利用できます。

【WPS (Wi-Fi Protected Setup)】

Wi-Fiアライアンスが2007年1月より認定を開始した規格です。プッシュボタンを押す、PIN (Personal Identification Number) コードを入力するどちらかの方式で接続を行い、無線LANアダプタをアクセスポイントに登録してSSIDとWPA2のセキュリティの設定を完了させます。接続方式は、付属の「お使いの手引き」または無線LANアダプタのユーティリティディスク（CD-ROM）収録の「無線クライアントユーティリティ詳細設定ガイド」をご覧ください。



- ・セキュリティ設定は、通信相手の機器に合わせて同じ内容の設定を行ってください。
- ・WEPとWPAまたはWPA2との併用はできません。

●SSIDを設定する

SSID を設定するには、次の手順を行います。

- 1 設定画面を起動し、「LAN 側設定」－「無線アクセスポイント設定」－「802.11g/b 設定」の順に選択します。
- 2 次のように設定します。

無線アクセスポイント設定 / 802.11g/b 設定 ? HELP

ネットワーク名 (SSID)	xxxxxxxxxx
モード	802.11g/b
チャンネル	自動設定
Superモード	有効
eXtended Range	有効
転送レート	Auto
IPv6マルチキャスト通信	無効
ステルスAP	無効
電波強度	最大
ビーコン間隔	100 ms (初期値: 100, 20~1000)
RTSしきい値	2346 (初期値: 2346, 256~2346)
パケット分割のしきい値	2346 (初期値: 2346, 256~2346)

設定 取消 戻る

①「ネットワーク名 (SSID)」に設定したい文字列を半角英数字および半角記号で入力します。



半角英数字および半角記号で最大 32 文字まで入力できます。

② [設定] をクリックします。

- 3 設定画面更新後に画面右上の [ログアウト] をクリックします。
- 4 本商品に設定した SSID と同じ文字列を、接続する無線 LAN アダプタに設定します。



無線 LAN アダプタの SSID の設定については、ご使用の無線 LAN アダプタの取扱説明書をご覧ください。

●ステルスAPを設定する

ステルス AP を設定すると、本商品の SSID を無線 LAN アダプタから検索できなくなります。ステルス AP を設定するには、次の手順を行います。

- 1 設定画面を起動し、「LAN 側設定」－「無線アクセスポイント設定」－「802.11g/b 設定」の順に選択します。
- 2 次のように設定します。

無線アクセスポイント設定 / 802.11g/b 設定 ? HELP

ネットワーク名 (SSID)	xxxxxxxxxx
モード	802.11g/b
チャンネル	自動設定
Superモード	有効
eXtended Range	有効
転送レート	Auto
IPv6マルチキャスト通信	無効
ステルスAP	有効
電波強度	最大
ビーコン間隔	100 ms (初期値: 100, 20~1000)
RTSしきい値	2346 (初期値: 2346, 256~2346)
パケット分割のしきい値	2346 (初期値: 2346, 256~2346)

①

②

設定 取消 戻る

①「ステルスAP」を「有効」にします。

② [設定] をクリックします。

- 3 設定画面更新後に画面右上の「ログアウト」をクリックします。



本商品と同じ SSID を設定している無線 LAN アダプタからは、本商品の SSID を確認することができます。

●アクセス制限を設定する

本商品に接続できる無線LANアダプタを、MACアドレスで制限することができます。アクセス制限を設定するには、次の手順を行います。

- 1 設定画面を起動し、「LAN 側設定」－「無線アクセスポイント設定」－「アクセス制限」の順に選択します。
- 2 次のように設定します。

無線アクセスポイント設定 / アクセス制限 ? HELP

無線端末間通信 ☒ 有効

無線-有線端末間通信 ☒ 有効

MACアドレスフィルタリング ☒ 有効

選択したクライアントのみ接続を許可します。
有効後、新たなクライアントを接続許可するには、PCデータベースに登録されている無線機器を選択するか、接続したい機器のMACアドレスを手入力で追加してください。

MACアドレス: - - - - -

	パソコン名	IPアドレス	MACアドレス	DHCP クライアント	編集
1	<input checked="" type="checkbox"/> XXXXXX	192.168.1.XX	XX.XX.XX.XX.XX.XX	自動取得 (DHCPクライアント)	-

①「MACアドレスフィルタリング」を「有効」にします。

② 下に表示されるクライアントリストのうちで、アクセスを許可したい無線LANパソコンにチェックを付けます。



許可したい無線LANパソコンがクライアントリストに表示されていない場合は、MACアドレスを手動で登録してください。設定項目の詳細については「アクセス制限」(P.73)をご覧ください。

③ [設定] をクリックします。

- 3 設定画面更新後に画面右上の「ログアウト」をクリックします。

●暗号化を設定する

無線LANの通信内容を暗号化して、傍受されても内容を解析されにくくすることができます。暗号化を設定するには、次の手順を行います。



- ・本商品に暗号化を設定した場合、本商品に接続する無線LANアダプタにも同じ暗号化を設定する必要があります。
- ・WEP と WPA または WPA2 との併用はできません。

■ WEP を設定する

WEP を設定するには、次の手順を行います。

- 1 設定画面を起動し、「LAN 側設定」－「無線アクセスポイント設定」－「802.11g/b セキュリティ設定」の順に選択します。
- 2 次のように設定します。

① 認証方式から「Open System」または「Shared Key」を選択します。

② 暗号方式から「WEP」を選択します。

③ 暗号化から「64Bit-16進数(0-9/a-f)10桁」、「128Bit-16進数(0-9/a-f)26桁」、「152Bit-16進数(0-9/a-f)32桁」、「64Bit-ASCII(半角英数記号)5文字」、「128Bit-ASCII(半角英数記号)13文字」、「152Bit-ASCII(半角英数記号)16文字」のいずれかを選択します。



ASCII で入力できる半角英数字および半角記号は、0～9、a～z、! ” # \$ % & ' () * + . - , / : ; < > ? @ [¥] . ^ _ { | } . です。

④ キー1～キー4に③で選択した文字数で任意の文字列を入力し、そのうちの1つを選択します。



「128Bit」、「152Bit」を選択した場合は、キー1のみ使用することができます。

⑤ [設定] をクリックします。

- 3 設定画面更新後に画面右上の［ログアウト］をクリックします。
- 4 本商品に設定した暗号化の設定と同じ設定を、接続する無線 LAN アダプタに設定します。



無線 LAN アダプタの暗号化の設定は、お使いの無線 LAN アダプタの取扱説明書をご覧ください。

■ WPA-PSK、WPA2-PSK を設定する

WPA-PSK、WPA2-PSK を設定するには、次の手順を行います。

- 1 設定画面を起動し、「LAN 側設定」－「無線アクセスポイント設定」－「802.11g/b セキュリティ設定」の順に選択します。
- 2 次のように設定します。

① 認証方式から「WPA/WPA2-PSK」、「WPA2-PSK」、「WPA-PSK」のいずれかを選択します。

② 暗号化方式から「自動(AES/TKIP)」、「AES」、「TKIP」のいずれかを選択します。



WPA2-PSK の暗号化は「AES」のみとなります。

③ WPA共有キーの「ASCII文字(8～63文字)」を選択し、入力欄に半角英数字および半角記号で8～63文字の任意の文字列を入力します。



入力できる半角英数字および半角記号は、0～9、a～z、! ” # \$ % & ' () * + . - , / : ; < > ? @ [¥] . ^ _ { | } . です。

④ [設定] をクリックします。

3 設定画面更新後に画面右上の [ログアウト] をクリックします。

4 本商品に設定した暗号化の設定と同じ設定を、接続する無線LANアダプタに設定します。



無線LANアダプタの暗号化の設定は、お使いの無線LANアダプタの取扱説明書をご覧ください。

ネットワークゲームをするには

ネットワークゲームは、ゲームサーバとデータの送受信を行う特定のポートを利用するため、本商品にUPnP設定やDMZ設定などを行う必要があります。



お使いの回線やプロバイダによっては、ネットワークゲームに対応していない場合がありますので、ご注意ください。

●UPnPに対応しているネットワークゲームの場合

本商品はUPnPに対応していますので、UPnPに対応したネットワークゲームであれば自動的に本商品の設定が行われます。本商品のUPnPの設定は、次の手順を行います。

※ UPnP 機能は Windows Vista/XP で使用できます。

- 1 設定画面を起動し、「詳細設定」－「UPnP」の順に選択します。
- 2 次のように設定します。



- ①「UPnPを使用する」から「有効」を選択します。
- ② [設定] をクリックします。
- 3 設定画面更新後に画面右上の [ログアウト] をクリックします。



Windows の UPnP (ユニバーサル プラグ アンド プレイ) に関するセキュリティの脆弱性が発見されています。本商品の UPnP を設定する前に、Windows の修正プログラムをインストールしてください。詳細な設定方法は、Microsoft 社にお問い合わせください。

●UPnPに対応していないネットワークゲームの場合

UPnP に対応していないネットワークゲームの場合は、次の手順で設定します。

- 1 設定画面を起動し、「詳細設定」－「DMZ」の順に選択します。
- 2 次のように設定します。



- ①「DMZホスト」から使用するパソコンを選択します。



「DMZ ホスト」に設定したいパソコンが表示されない場合は、「PC データベース」(P.65) でパソコンを手動で登録してください。

- ② [設定] をクリックします。

- 3 設定画面更新後に画面右上の「ログアウト」をクリックします。



DMZ 機能の対象となっているパソコンは、本商品のファイアウォール機能が無効になるため、セキュリティが弱くなります。DMZ 機能は、必要な場合のみ有効にしてご使用ください。

音声／ビデオチャットなどのツールを使うには

ここでは代表的なソフトとして、NetMeeting、MSN Messenger を利用する場合の設定を説明しています。本商品は、NetMeeting、MSN Messenger (Ver.7.0以降)、Windows Live Messenger (Ver.8.0) に対応しています。ソフトの使用方法は、各ソフトのヘルプやホームページをご覧ください。



MSN Messenger、NetMeeting は 1 台のパソコンでのみ使用できます。

●NetMeeting

NetMeeting を使用するには DMZ 機能を設定します。次の手順で設定してください。

- 1 設定画面を起動し、「詳細設定」－「DMZ」の順に選択します。
- 2 次のように設定します。



- ①「DMZホスト」から使用するパソコンを選択します。



「DMZ ホスト」に設定したいパソコンが表示されない場合は、「PC データベース」(P.65) でパソコンを手動で登録してください。

- ②「設定」をクリックします。

- 3 設定画面更新後に画面右上の「ログアウト」をクリックします。



DMZ 機能の対象となっているパソコンは、本商品のファイアウォール機能が無効になるため、セキュリティが弱くなります。DMZ 機能は、必要な場合のみ有効にしてご使用ください。

●MSN Messenger(Ver.7.0以降)／Windows Live Messenger(Ver.8.0)

本商品はUPnPに対応しておりますので、Windows Vista/XPでMSN Messengerを利用する場合は、自動的に本商品の設定が行われます。本商品のUPnPの設定を無効にしている場合は、次の手順でUPnPを有効に設定してください。

- 1 設定画面を起動し、「詳細設定」－「UPnP」の順に選択します。
- 2 次のように設定します。



①「UPnPを使用する」から「有効」を選択します。

②「設定」をクリックします。

- 3 設定画面更新後に画面右上の「ログアウト」をクリックします。



- ・MSN MessengerはVer.7.5で動作確認しています。
- ・UPnP対応MSN Messengerの対応OSはWindows XP Service Pack1（SP1）以降です。

また、Windows 2000でMSN Messengerを利用する場合はDMZ機能を使います。次の手順で設定してください。

- 1 設定画面を起動し、「詳細設定」－「DMZ」の順に選択します。
- 2 次のように設定します。



①「DMZホスト」から使用するパソコンを選択します。



「DMZホスト」に設定したいパソコンが表示されない場合は、「PCデータベース」(P.65)でパソコンを手動で登録してください。

②「設定」をクリックします。

- 3 設定画面更新後に画面右上の「ログアウト」をクリックします。



DMZ機能の対象となっているパソコンは、本商品のファイアウォール機能が無効になるため、セキュリティが弱くなります。DMZ機能は、必要な場合のみ有効にしてご使用ください。

ポートを開放するには

●バーチャルサーバを使用する

バーチャルサーバ機能を利用してポートを開放し、外部にサーバを公開することができます。公開するには次の手順で設定してください。

- 1 設定画面を起動し、「詳細設定」－「バーチャルサーバ（ポート開放）」の順に選択します。
- 2 次のように設定します。

① 接続先
② サービス
③ 備考
④ 登録

①「接続先」からサーバにするパソコンを選択します。



- ・「接続先」に設定したいパソコンが表示されない場合は、「PCデータベース」(P.65)でパソコンを手動で登録してください。
- ・設定するパソコンがIP自動取得の場合はIP固定に変更されます。

②公開するサーバに合わせて「サービス」を設定します。



- ・「ポート範囲」および「プロトコル」は、「サービス」で「ユーザ定義」を選択した場合に設定します。
- ・例ではWebサーバを公開する設定をしています。

③「備考」に「WEBサーバ」と入力します。

④「登録」をクリックします。

- 3 設定画面更新後に下に表示されるバーチャルサーバリストに設定した内容が登録されたことを確認します。

登録されたことを確認します。

- 4 画面右上の「ログアウト」をクリックします。

外部にネットワークカメラ(カメラサーバ)の映像を公開するには

本商品にコレガ製ネットワークカメラを接続して、撮影した画像をインターネット上に配信することができます。その場合は、「PCデータベース」(P.65)、「バーチャルサーバ(ポート開放)」(P.81)、「ダイナミックDNS」(P.61)などの設定を行う必要があります。

詳しい解説をホームページからご覧になることができます。コレガホームページ (<http://corega.jp/>) から「製品情報」－「導入ナビゲーション」の順に選択し、お助けコレガくんシリーズ「ダイナミックDNS活用ガイド」をご覧ください(2007年10月現在)。

URL : <http://corega.jp/product/navi/ddns/>



マルチPPPoEで2つの接続先を使い分けるには

●プロバイダとフレッツ・スクウェアに接続する

マルチ PPPoE でフレッツ・スクウェアの設定を行うと、通常のプロバイダと「フレッツ・スクウェア」へ同時に接続することができます。

- 1 設定画面を起動し、画面左側のメニューから「簡単設定」を選択します。
- 2 「次へ」をクリックします。

簡単設定

簡単設定によってインターネット接続への設定ができます。
インターネット接続に必要な資料を用意してください。

本製品とモデムが接続されているのを確認し、「次へ >」ボタンをクリックしてください。

次へ > キャンセル

「次へ」をクリックします。

- 3 「手動」を選択し、「次へ」をクリックします。

簡単設定 - インターネット接続(WAN側設定)

インターネット接続への設定を自動判別します。

インターネットの接続方法を自動的に判別します。
WAN側ポートにケーブルを接続し「次へ >」ボタンをクリックしてください。
通常は自動を選択してください。

※ご使用の回線がわかりましたら「手動」を選び「次へ >」ボタンをクリックしてください。

☐ 自動

☒ 手動

次へ > キャンセル

①「手動」を選択します。

②「次へ」をクリックします。

- 4 「PPPoE (FLET'S シリーズ)」を選択し、「次へ」をクリックします。

簡単設定 - インターネット接続(WAN側設定)

インターネット接続への設定(WAN側設定)をしてください。

インターネットへの接続方法を選んでください。

☐ IP自動取得(DHCP)

☐ IP固定設定

☒ PPPoE (FLET'S シリーズ)

次へ > キャンセル

①「PPPoE (FLET'S シリーズ)」を選択します。

②「次へ」をクリックします。

- 5 「接続ユーザ名」「接続パスワード」「パスワードの確認」を入力し、[次へ] をクリックします。

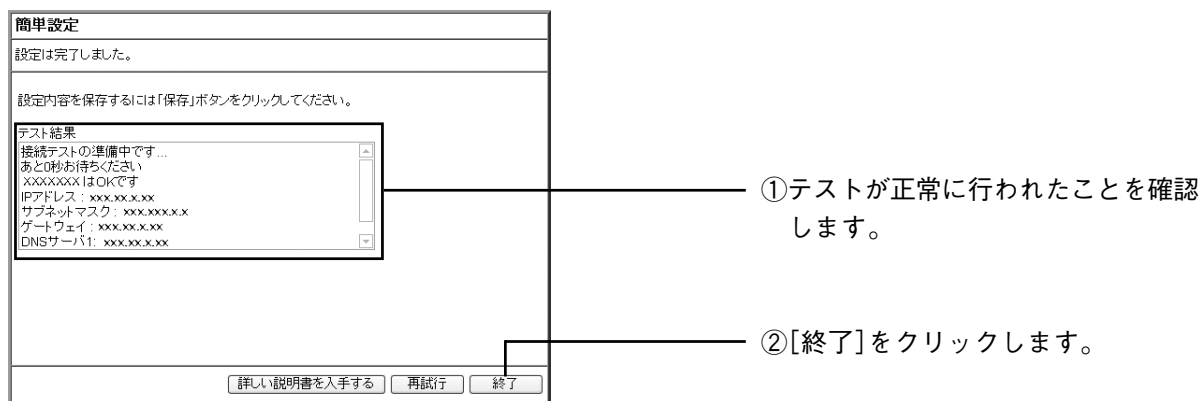
- 6 フレッツ・スクウェアから契約している地域、「東日本」または「西日本」を選択し、[次へ] をクリックします。



地域を選択すると、フレッツ・スクウェアの接続ユーザ名、接続パスワードが自動的に入力されます。

- 7 [保存] をクリックし、接続テストを行います。

8 テストが正常に行われたことを確認し、[終了] をクリックします。



●複数固定IPサービスを利用するには(Unnumbered IP／Unnumbered IP + Private IP)

各プロバイダがPPPoE回線で提供する複数固定IPアドレスサービスを利用することにより、プロバイダから割り当てられた複数のグローバル固定IPアドレスを本商品および本商品に接続するパソコンに設定して、サーバの公開などを行うことができます。

■Unnumbered IP

本商品に、グローバル固定IPのパソコンのみを接続する場合に設定します。



ここでは以下の設定を例に説明します。

・本商品の元の設定

IP アドレス：192.168.1.1

サブネットマスク：255.255.255.0

・プロバイダからの設定情報

IP アドレス：「XXX.〇〇〇.□□□.113～XXX.〇〇〇.□□□.120」

サブネットマスク：255.255.255.◆◆◆

DNS サーバ：12.34.56.12

・設定するパソコンのIP アドレス

「XXX.〇〇〇.□□□.115」

- 1 設定画面を起動し、「WAN側設定（インターネット）」－「PPPoE」を選択し、[セッション-1 設定]の順に選択します。
- 2 次のように設定します。

The screenshot shows the 'PPPoE/セッション-1 設定' screen. The fields and their corresponding callouts are:

- ①: アカウント選択 (Account Selection)
- ②: 接続ユーザーID (Connection User ID), 接続パスワード (Connection Password), and 接続パスワードの確認 (Confirm Connection Password)
- ③: PPPoEサービス・タイプ (PPPoE Service Type)
- ④: ルータIP (Router IP)
- ⑤: サブネットマスク (Subnet Mask)
- ⑥: DNSサーバ1 (DNS Server 1)
- ⑦: DNSサーバ2 (DNS Server 2)

- ①「アカウント選択」は任意のアカウントを選択します。
- ②「接続ユーザーID」、「接続パスワード」、「接続パスワードの確認」を入力します。
- ③「PPPoEサービス・タイプ」は「Unnumbered IP」を選択します。
- ④「ルータIP」は「XXX.〇〇〇.□□□.114」と入力します（プロバイダから割り当てられた最初のIPアドレスはネットワークアドレスのため、次のIPアドレスが入ります）。
- ⑤サブネットマスクは「255.255.255.◆◆◆」と入力します。

⑥「DNSサーバ」は「マニュアル設定」を選択し、「DNSサーバ1」に「12.34.56.12」と入力します。

⑦「設定」をクリックします。

3 設定するパソコンの固定 IP アドレスを以下のように変更します。

- ・ IPアドレスは「XXX.〇〇〇.□□□.115」と入力します(設定したいIPアドレス)。
- ・ サブネットマスクは「255.255.255.◆◆◆」と入力します。
- ・ デフォルトゲートウェイは「XXX.〇〇〇.□□□.114」と入力します(ルータIPと同じ)。
- ・ DNSサーバは「12.34.56.12」と入力します。



パソコンのTCP/IPの変更方法については、本書の「パソコンのTCP/IPを設定する」(P.5)をご覧ください。か、各OSの取扱説明書をご覧ください。

4 本商品の設定画面に再度アクセスする場合は、Web ブラウザのアドレス欄に入力する IP アドレスを「WAN 側設定 (インターネット)」で設定した「XXX. 〇〇〇. □□□. 114」と入力します。

詳しくは、「PART2 設定画面を見てみよう」の「PPPoE」(P.54)をご覧ください。

■ Unnumbered IP + Private IP

本商品に、グローバル固定 IP のパソコンのほかにプライベート IP のパソコンを接続する場合に設定します。

- 1 設定画面を起動し、「WAN 側設定 (インターネット)」－「PPPoE」を選択し、[セッション-1 設定]の順に選択します。
- 2 PPPoE サービス・タイプは「Unnumbered IP + Private IP」を選択します。
- 3 そのほかのルータの設定は、Unnumbered IP (P.37) と同じです。



パソコンのTCP/IPの変更方法については、本書の「パソコンのTCP/IPを設定する」(P.5)をご覧ください。か、各OSの取扱説明書をご覧ください。

- 4 グローバル固定 IP を設定したパソコンから本商品の設定画面にアクセスする場合は、Web ブラウザのアドレス欄に「WAN 側設定 (インターネット)」で設定した「XXX. 〇〇〇. □□□. 114」と入力します。
- 5 プライベート IP を使用するパソコンから本商品の設定画面にアクセスする場合は、Web ブラウザのアドレス欄に「192.168.1.1」と入力します。

詳しくは、「PART2 設定画面を見てみよう」の「PPPoE」(P.54)をご覧ください。

ダイナミックDNSを使用してURLで接続するには

本商品に接続したパソコンをバーチャルサーバなどでサーバ公開している場合に、通常は接続のたびに変更されるグローバルIPでアクセスする必要がありますが、ダイナミックDNSを使用することで常に同じダイナミックDNS名でアクセスすることができるようになります。

ダイナミックDNSを使用するには、次の手順を行います。また、本商品に接続したパソコンがインターネットに接続できる必要があります。

- 1 ダイナミックDNSサービスに未登録の場合は、「corede.net」(無料/日本語ページ)、「DynDNS.org」(無料/英語ページ)、「IvyNetwork」(有料/日本語ページ)のいずれかのサービスに登録します。

詳しい解説をホームページからご覧になることができます。コレガホームページ(<http://corega.jp/>)から「製品情報」－「導入ナビゲーション」の順に選択し、お助けコレガくんシリーズ「ダイナミックDNS活用ガイド」をご覧ください(2007年10月現在)。

URL : <http://corega.jp/product/navi/ddns/>



- 本商品が対応するダイナミックDNSサービスは、「corede.net」、「DynDNS.org」、「IvyNetwork」、「@Net DDNS」のみとなります。
- 「DynDNS.org」、「IvyNetwork」、「@Net DDNS」が運用するダイナミックDNSサービスについては、コレガのサポート対象外となります。
- 「@Net DDNS」は@Net Home会員のみのサービスとなります。ご利用いただく場合は、あらかじめ@Net Home加入者サポートページよりダイナミックDNSサービスをお申し込みください。

- 2 設定画面を起動し、「WAN 側設定 (インターネット)」－「ダイナミック DNS」の順に選択します。

3 次のように設定します。

The screenshot shows the 'Dynamic DNS' configuration page. At the top, there's a title 'ダイナミック DNS' and a 'HELP' link. Below it, there's explanatory text about using domain names for virtual servers and a list of supported services: corede.net, DynDNS.org, and IvyNetwork. A table-like form contains the following fields: 'ダイナミックDNS' (set to DynDNS.org), 'ログイン名' (XXXXXX), 'ログイン パスワード' (masked with dots), 'ドメイン名' (coreddns.dynalias.net), and 'IPチェック時間' (18時間). At the bottom are buttons for '設定', '取消', '戻る', and '更新'. Three numbered callouts point to specific elements: ① points to the 'ダイナミックDNS' dropdown, ② points to the 'ログイン名', 'ログイン パスワード', and 'ドメイン名' fields, and ③ points to the '設定' button.

※画面は以下の設定例です。

- ・使用するダイナミック DNS
DynDNS
- ・ドメイン名
coreddns.dynalias.net

①使用するダイナミックDNSを選択します。

②「ログイン名」、「ログインパスワード」、「ドメイン名」の各欄にダイナミックDNSサービスに登録した情報を入力します。

③ [設定] をクリックします。

4 設定画面更新後、画面右上の [ログアウト] をクリックします。

以上で設定は終了です。詳しくは、「PART2 設定画面を見てみよう」の「ダイナミック DNS」(P.61) をご覧ください。

無線アクセスポイントとして使用するには

アッカ・ネットワークスやイー・アクセス、NTTなどのルータ機能付きモデムをお使いの場合は、本商品のルータ機能を無効に設定します。ルータ付きモデムの設定を変更せずに、本商品を無線アクセスポイントとして使用できます。



ここで紹介する手順を行なう前に、ルータ機能付きモデムとパソコンのみを接続して、問題なく通信ができるかご確認ください。ルータ機能付きモデムの接続および設定方法については、お使いのモデムの取扱説明書をご覧ください。



- ・本商品のルータ機能を無効にした場合、本商品のIPアドレスは自動的に「192.168.1.220」に変更されます。
- ・本商品のルータ機能を再び有効にした場合、本商品のIPアドレスは自動的に「192.168.1.1」に変更されます。
- ・ルータ機能付きモデムと接続する場合、「簡単設定」(P.52) から設定することもできます。詳しくは、付属の「お使いの手引き」の「PART2 設定する - ルータをお使いの環境にあわせて設定する」の「ほかにルータがある場合」をご覧ください。

- 1 設定画面を起動し、「モード」を選択します。
- 2 次のように設定します。



①「ルータ機能」を「無効」にします。

② [設定] をクリックします。

- 3 Web ブラウザを終了します (本商品のIPアドレスが192.168.1.220に変更されるため、設定更新後に設定画面は正常に表示されません)。
- 4 パソコンを再起動します。

以上で本商品の設定は終了です。



本商品のルータ機能を無効にした場合、本商品のWANポートはLANポートとして使用できます。



- ・ルータ機能を無効にすると DHCP サーバの機能も停止します。
- ・本商品の設定画面を再度表示するには、パソコンのIPアドレスの設定を変更する必要があります。

本商品のログイン名(ユーザ名)、パスワードを変更したいときは

本商品のログイン名（ユーザ名）、パスワードは、次の手順で変更できます。

- 1 設定画面を起動し、「管理」を選択します。
- 2 次のように設定します。

The screenshot shows a web-based management interface. At the top, there is a header with '管理' (Management) and a 'HELP' button. Below this is a form with several fields and buttons. The fields are: '管理者ログイン名' (Administrator Login Name) with a text input containing 'XXXXXXXX', '管理者ログイン・パスワード' (Administrator Login Password) with a password input containing 8 dots, 'パスワードの確認' (Confirm Password) with a password input containing 8 dots, 'IPマスカレード・テーブル保持時間' (IP Masking Table Retention Time) with a value of '10' and a unit of '分(10 ~ 300)', '時間設定' (Time Setting) with a dropdown menu set to '自動設定' (Automatic Setting), '工場出荷時の状態へ戻す' (Return to Factory Default State) with an '実行' (Execute) button, '再起動' (Restart) with an '実行' (Execute) button, '設定保存' (Save Settings) with a '保存' (Save) button, and '設定読込' (Load Settings) with a '読込' (Load) button. Below these are links for 'ファームウェア更新' (Firmware Update), 'リモート' (Remote), and 'PINGテスト' (PING Test). At the bottom of the form are three buttons: '設定' (Settings), '取消' (Cancel), and '戻る' (Back). Numbered callouts point to specific elements: ① points to the '管理者ログイン名' input field, ② points to the '管理者ログイン・パスワード' input field, ③ points to the 'パスワードの確認' input field, and ④ points to the '設定' (Settings) button.

- ①新しく設定するログイン名を入力します。
 - ②新しく設定するパスワードを入力します。
 - ③確認のため②で入力したパスワードを再度入力します。
 - ④[設定] をクリックします。
- 3 設定画面更新後、画面右上の［ログアウト］をクリックします。

最新のファームウェアを入手してアップデートしたいときは

本商品の機能強化のため、予告なくファームウェアのバージョンアップを行うことがあります。最新のファームウェアはコレガホームページ（<http://corega.jp/>）から入手してください。また、設定画面から最新のファームウェアダウンロードページに接続することもできます。詳しくは「PART2 設定画面を見てみよう」の「ファームウェア更新」（P.85）をご覧ください。



- ・更新するファームウェアのバージョンによっては、お客様が更新前に設定されたデータが反映されない場合があります。
- ・ファームウェアをアップデートする前に「バックアップを取る」（P.45）をご覧ください。本商品の設定内容を控えておいてください。
- ・ファームウェアをアップデート中は、ほかの操作を行ったり、本商品の電源を切ったりしないでください。ファームウェアのアップデートに失敗したり、本商品の故障の原因となる場合があります。

ここでは「C:\corega」という名前のフォルダに「XXXXXX.xxx」というファイルを保存した場合を例として説明します。

- 1 設定画面を起動し、「管理」を選択します。
- 2 「ファームウェア更新」を選択します。

管理 ? HELP

管理者ログイン名	root
管理者ログイン・パスワード	
パスワードの確認	
IPマスカレード・テーブル保持時間	10 分(10 ~ 300)
時間設定	自動設定
工場出荷時の状態へ戻す	実行
再起動	実行
設定保存	保存
設定読込	読込
ファームウェア更新	
リモート	
PINGテスト	

設定 取消 戻る

「ファームウェア更新」を選択します。

- 3 [参照] をクリックします。

管理 / ファームウェア更新 ? HELP

ファームウェア・ファイル: (参照...)

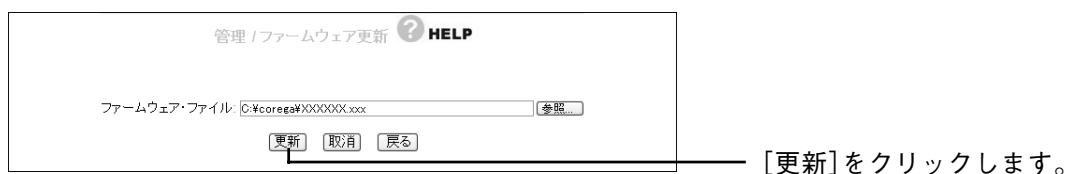
更新 取消 戻る

[参照] をクリックします。

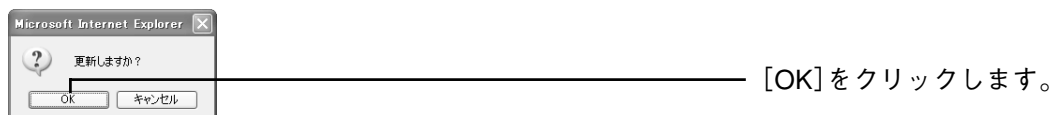
- 4 「C:¥corega」内の「XXXXXX.xxx」を選択し、[開く]をクリックします。



- 5 [更新] をクリックします。



- 6 次の画面が表示されますので、[OK] をクリックし、ファームウェアのアップデート処理を開始します。



- 7 アップデート処理が終了したら、初期化ボタンを15秒以上押して本商品を工場出荷時の状態に戻します。詳しくは「本商品を工場出荷時の状態（初期値）に戻すには」（P.48）をご覧ください。



ファームウェアのアップデート後に工場出荷時の状態に戻すには、設定画面からではなく必ず本商品背面の初期化ボタンを使用してください。

以上でファームウェアのアップデートは終了です。



設定内容を控えている場合は「元に戻す」（P.46）をご覧ください、設定内容を反映させてください。

●ファームウェアのアップデートに失敗した

本商品のファームウェアファイル以外のファイルを読み込ませた場合は、再起動します。再起動後、本商品のファームウェアファイルを用意して再度ファームウェアのアップデートを行ってください。

本商品の設定のバックアップを取る／元に戻すときは

現在の設定内容をバックアップすると、何らかの原因で設定内容が壊れたりした場合に、保存してあるバックアップファイルを使用して設定を元に戻すことができます。

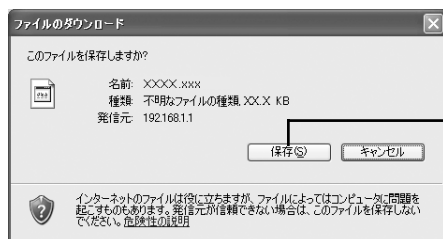


バックアップしたファイルは、更新されたファームウェアのバージョンによって反映されない場合があります。

●バックアップを取る

- 1 設定画面を起動し、「管理」を選択します。
- 2 「設定保存」の「保存」をクリックします。

- 3 「ファイルのダウンロード」ダイアログボックスが表示されますので、「保存」をクリックします。



- 4 「名前を付けて保存」のダイアログボックスが表示されますので、保存する場所を指定して「保存」をクリックし、ファイルを保存します。

以上で本商品の設定内容がバックアップされました。

●元に戻す

- 1 設定画面を起動し、「管理」を選択します。
- 2 「設定読込」の「読込」をクリックします。

管理者ログイン名	root
管理者ログインパスワード	
パスワードの確認	
IPマスカレード・テーブル保持時間	10 分(10 ~ 300)
時間設定	自動設定
工場出荷時の状態へ戻す	実行
再起動	実行
設定保存	保存
設定読込	読込
ファームウェア更新	
リモート	
PINGテスト	

設定 取消 戻る

「読込」をクリックします。

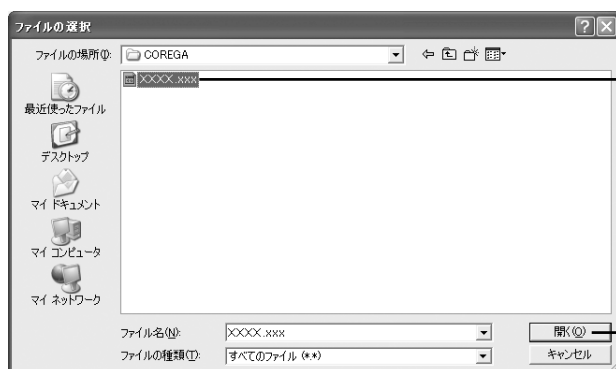
- 3 次の画面が表示されますので、「参照」をクリックします。

設定ファイル: 参照...

読込 取消 戻る

「参照」をクリックします。

- 4 「バックアップを取る」で保存したファイルを選択し、「開く」をクリックします。



①保存してあるファイルを選択します。

②「開く」をクリックします。

- 5 「読込」をクリックします。

設定ファイル: COREGA\XXXX.XXX

読込 取消 戻る

「読込」をクリックします。

- 6 「設定ファイルを読み込みます。よろしいですか？」と表示されますので、「OK」をクリックします。

以上で本商品の設定を元に戻すことができました。

本商品を再起動するには

本商品を再起動するには、次のいずれかの手順を行います。本商品の設定を変更した場合には、本商品を再起動して設定内容を反映させてください。

●電源を一度抜く

AC アダプタの電源プラグを電源コンセントから一度抜き、再度差し込みます。



本商品が起動するまでにおよそ 2 分程度かかります。本商品の起動が完了するまでしばらくお待ちください。

●設定画面を使う

- 1 設定画面を起動し、「管理」を選択します。
- 2 「再起動」の「実行」をクリックします。

[実行] をクリックします。

- 3 次の画面が表示されますので、[OK] をクリックすると本商品が再起動します。



[OK] をクリックします。



本商品が起動するまでにおよそ 2 分程度かかります。本商品の起動が完了するまでしばらくお待ちください。

- 4 本商品が再起動し、ログイン画面が表示されます。

本商品を工場出荷時の状態(初期値)に戻すには

本商品を工場出荷時の状態に戻すと、今まで設定した情報が初期値に戻ってしまいますので、重要な設定をしている場合は、設定内容をメモに控えておくか、「本商品の設定のバックアップを取る／元に戻すときは」(P.45)を実行し、再設定できるようにしておいてください。本商品を工場出荷時の状態に戻すには、次の2つの方法があります。

●初期化ボタンを使う

- 1 本商品の電源がオンの状態で、クリップなど硬くて細いものを使用して、背面にある初期化ボタンを15秒以上押し、離します。
- 2 本商品が起動を開始します。



本商品が起動するまでにおよそ2分程度かかります。本商品の起動が完了するまでしばらくお待ちください。

- 3 Power LED が点灯し、Status LED が点灯（点滅）→消灯に変わり、本商品が起動したことを確認します。

以上で、本商品が工場出荷時の状態に戻りました。

●設定画面を使う

- 1 設定画面を起動し、「管理」を選択します。
- 2 「工場出荷時の状態へ戻す」の「実行」をクリックします。

[実行]をクリックします。

- 3 次の画面が表示されますので、[OK] をクリックします。



[OK]をクリックします。



本商品が起動するまでにおよそ2分程度かかります。本商品の起動が完了するまでしばらくお待ちください。

- 4 本商品が工場出荷時の状態に戻り、ログイン画面が表示されます。

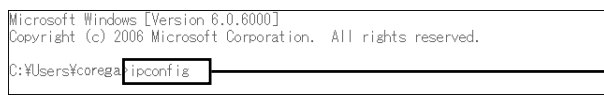
以上で、本商品が工場出荷時の状態に戻りました。

パソコンのIPアドレスを調べたいときは

パソコンのIPアドレスを調べるには、次の手順に従ってください。Windows以外のOSについては、OSのヘルプや取扱説明書をご覧ください。

●Windows Vistaの場合

- 1 「スタート」－「すべてのプログラム」－「アクセサリ」－「コマンドプロンプト」の順に選択します。
- 2 キーボードから「ipconfig」と入力してEnterキーを押します。パソコンのIPアドレスが表示されます。



```
Microsoft Windows [Version 6.0.6000]
Copyright (c) 2006 Microsoft Corporation. All rights reserved.

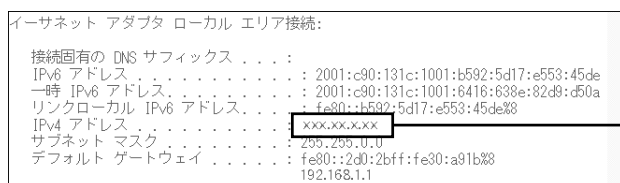
C:\Users\corega>ipconfig
```

「ipconfig」と入力します。

※画面例

「C:\Users\corega」の部分は、パソコンの使用環境によって表示が異なります。

- 3 「IPv4 アドレス」に記載されている IP アドレスを確認します。



```
イーサネット アダプタ ローカル エリア接続:
    接続固有の DNS サフィックス . . . : 
    IPv6 アドレス . . . . . : 2001:c90:131c:1001:b592:5d17:e553:45de
    一時 IPv6 アドレス . . . . . : 2001:c90:131c:1001:6416:638e:82d9:d50a
    リンクローカル IPv6 アドレス . . . : fe80::b592:5d17:e553:45de%8
    IPv4 アドレス . . . . . : xxx.xxx.xxx
    サブネット マスク . . . . . : 255.255.0.0
    デフォルト ゲートウェイ . . . . . : fe80::2d0:2bff:fe30:a91b%8
    192.168.1.1
```

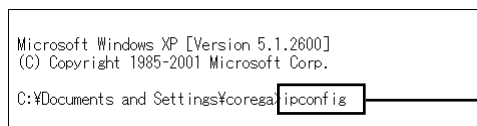
IP アドレスを確認します。

※正しく表示されない場合は、

「ipconfig /renew」と入力して、Enterキーを押します（/は半角スペースを入力します）。

●Windows XP/2000の場合

- 1 「スタート」－「すべてのプログラム」（Windows 2000 の場合は「プログラム」）－「アクセサリ」－「コマンドプロンプト」の順に選択します。
- 2 キーボードから「ipconfig」と入力して、Enterキーを押します。パソコンのIPアドレスが表示されます。



```
Microsoft Windows XP [Version 5.1.2600]
(C) Copyright 1985-2001 Microsoft Corp.

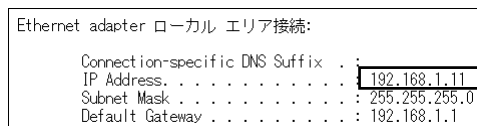
C:\Documents and Settings\corega>ipconfig
```

「ipconfig」と入力します。

※画面例

「C:\Documents and Settings\corega」の部分は、パソコンの使用環境によって表示が異なります。

- 3 IP アドレスを確認します。



```
Ethernet adapter ローカル エリア接続:
    Connection-specific DNS Suffix . : 
    IP Address . . . . . : 192.168.1.11
    Subnet Mask . . . . . : 255.255.255.0
    Default Gateway . . . . . : 192.168.1.1
```

IP アドレスを確認します。

※正しく表示されない場合は、

「ipconfig /renew」と入力して、Enterキーを押します（/は半角スペースを入力します）。

●Windows Me/98SEの場合

- 1 「スタート」－「ファイル名を指定して実行」の順に選択します。
- 2 「名前」に「winipcfg」と入力して、[OK] をクリックします。
- 3 パソコンで使用しているネットワークアダプタを選択すると、パソコンのIPアドレスが表示されます。正しく表示されない場合は、[解放] をクリックしたあと、[書き換え] をクリックします。



①ご使用のネットワークアダプタを選択します。

※実際に表示される名称は、ご使用のネットワークアダプタのメーカー、機種によって異なります。

②IPアドレスを確認します。

PART 2

設定画面を見てみよう

このPARTでは、本商品の設定画面について説明します。本商品を使っていて「機能を使いこなしたい」、「設定画面の詳しい情報が知りたい」と思ったときは、このPARTで項目を探してください。

設定画面の全体構成について

CG-WLBARGSX	設定画面のトップページです	51
— モード	ルータ機能と無線アクセスポイント機能を設定します	52
— 簡単設定	インターネット接続の設定をウィザード形式で簡単に設定します	52
— WAN側設定(インターネット)	WAN(インターネット)側の設定をします	53
— ダイナミックDNS	ダイナミックDNSを利用してWebサーバなどを公開するときに設定します	61
— パススルー	VPNパススルーなどを設定します	62
— LAN側設定	LAN(パソコン)側の設定をします	63
— ルータIP	本商品のIPアドレスなどを設定します	63
— DHCPサーバ/PCデータベース	DHCPサーバの設定や、本商品に接続するパソコンを管理します	64
— 無線アクセスポイント設定	無線LANの設定をします	67
— Wi-Fi Protected Setup	対応機器の無線LANセキュリティを簡単に設定します	67
— 802.11g/b設定	無線LANで使用するネットワーク名(SSID)などを設定します	68
— 802.11g/bセキュリティ設定	無線LANのセキュリティを設定します	70
— アクセス制限	無線クライアントのアクセスを制限します	73
— マルチAP設定	セカンドSSIDのセキュリティを設定します	74
— セキュリティ設定	本商品のセキュリティを設定します	75
— アクセス制限	本商品を経由するネットワーク全体のアクセスを制限します	76
— コンテンツフィルタ	フィルタリングサービスを利用してアクセスを制限します	77
— URLフィルタ	アクセス制限したいURLやキーワードを登録します	78
— スケジュール	アクセス制限したい時間帯を設定します	79
— 詳細設定	本商品の高度な機能を設定します	80
— バーチャルサーバ(ポート開放)	WAN側にサーバを公開するときに設定します	81
— DMZ	指定したLAN側のパソコンに、WAN側からのすべてのアクセスを可能にします	82
— UPnP	UPnPに関する機能を設定します	82
— UPnP使用ポート	UPnPで使用しているポートを確認できます	83
— 管理	ログイン名やパスワードなどのシステム変更する場合に設定します	84
— ファームウェア更新	ファームウェアの更新をします	85
— リモート	WAN(インターネット)側から本商品の設定をしたいときに設定します	86
— PINGテスト	PINGを使ったテストを行うことができます	87
— Cable Test	使用しているポートのリンク速度を表示します	87
— ステータス	現在の各種システム情報を表示します	88
— ログ表示	ログ情報を表示、書き換えをします	89
— アタックログ	DoSアタックが発生した場合、そのログを保存します	89
— DHCPログ	本商品のDHCPサーバ機能の稼働状況を表示します	89
— システムログ	本商品のアクセス履歴を表示します	89
— 無線アクセスログ	本商品の無線アクセス履歴を表示します	89

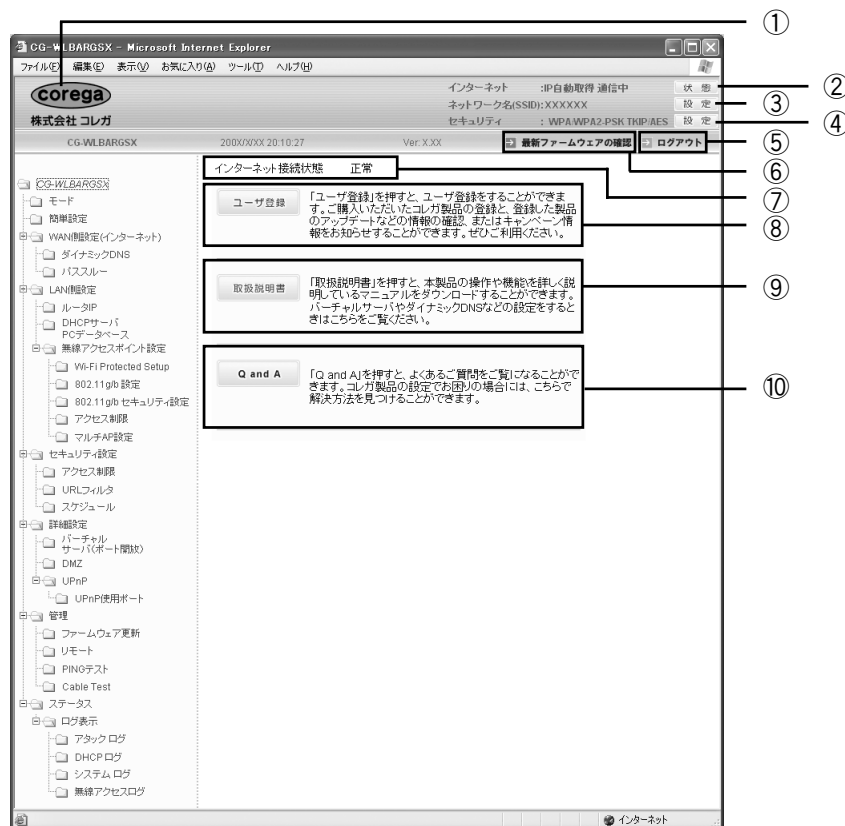
設定画面の各機能



- ・このPARTでは例を使用して説明しています。実際にはご使用の環境に合った値を入力してください。
- ・各画面にある[HELP]をクリックすると説明が表示されます。
- ・各画面の例は、PPPoE接続の画面です。IP自動取得接続やIP固定接続では、画面が例と異なる場合があります。

●CG-WLBARGSX(トップページ)

インターネットに接続している場合のメニューをすべて表示した状態です。インターネットに接続していない場合は「簡単設定」画面(P.52)を表示します。



① コレガロゴ

インターネット接続時にクリックすると、コレガホームページを表示します。

② インターネット [状態]

「ステータス」画面(P.88)を表示します。

③ ネットワーク名(SSID) [設定]

「802.11g/b 設定」画面(P.68)を表示します。

④ セキュリティ [設定]

「802.11g/b セキュリティ設定」画面(P.70)を表示します。

⑤ [ログアウト]

ログアウトします。再ログインする場合は[再ログイン]をクリックします。

⑥ [最新ファームウェアの確認]

インターネット接続時にクリックすると、本商品の最新ファームウェアの有無を確認します。

⑦ インターネット接続状態

インターネットの接続状態を表示します。

⑧ [ユーザ登録]

インターネット接続時にクリックすると、ユーザ登録をすることができます。

⑨【取扱説明書】

インターネット接続時にクリックすると、コレガホームページを表示して「詳細設定ガイド」(本書)などの各取扱説明書の最新版をダウンロードすることができます。

⑩【Q and A】

インターネット接続時にクリックすると、コレガホームページのよくあるお問い合わせを表示します。

●モード

「ルータ機能」と「無線アクセスポイント機能」のモード切り替えを設定します。



①ルータ機能

ルータ機能の有効／無効を設定します。

・有効

ルータ機能を使用します(初期値)。

・無効

ルータ機能を使用しません。

②無線アクセスポイント機能

無線アクセスポイント機能の有効／無効を設定します。

・無線アクセス有効

無線アクセスポイント機能を使用します(初期値)。

・無線アクセス無効

無線アクセスポイント機能を使用しません。

③【設定】

設定した内容を保存します。

④【戻る】

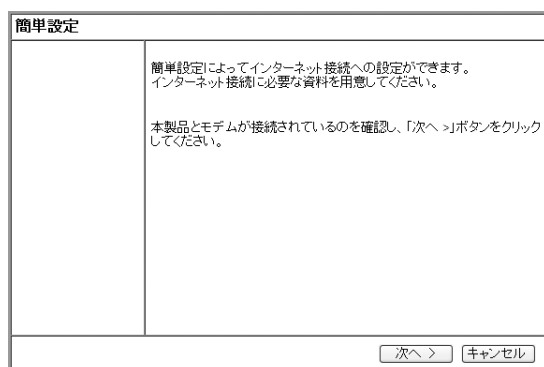
「トップページ」画面(P.51)に戻ります。

●簡単設定

簡単にインターネット接続の設定ができます。設定の詳細については、付属の「お使いの手引き」の「PART2 設定する - ルータをお使いの環境にあわせて設定する」をご覧ください。



本商品のルータ機能が無効の場合は表示されません。



●WAN側設定(インターネット)

WAN 側の通信方法を設定できます。



本商品のルータ機能が無効の場合は表示されません。



① リンク速度

WAN側ポートのリンク方法を設定できます。

・ 自動、100M Full、100M Half、10M Full、10M Half

WAN側ポートのリンク方法を自動、100MbpsのFull Duplex、100MbpsのHalf Duplex、10MbpsのFull Duplex、10MbpsのHalf Duplexから選択します(初期値：自動)。

通常は「自動」から変更する必要はありません。WAN側が正常にリンクできない場合にお試しください。

② MDI切替

MDIの切替方法を設定できます。

・ 自動

MDIを自動で設定します(初期値)。

③ 接続方法

WAN側通信の接続方法を設定できます。お使いの回線によって選択します。

・ PPPoE

フレッツ・ADSL、Bフレッツなどで接続する場合に選択します。詳しい設定画面は「PPPoE」画面(P.54)をご覧ください。

設定方法は付属の「お使いの手引き」の「PART2 設定する-ルータをお使いの環境にあわせて設定する」をご覧ください。

マルチPPPoEの設定方法は「マルチPPPoEで2つの接続先を使い分けるには」(P.34)をご覧ください。

Unnumbered IPの設定方法は「複数固定IPサービスを利用するには(Unnumbered IP/Unnumbered IP+Private IP)」(P.37)をご覧ください。

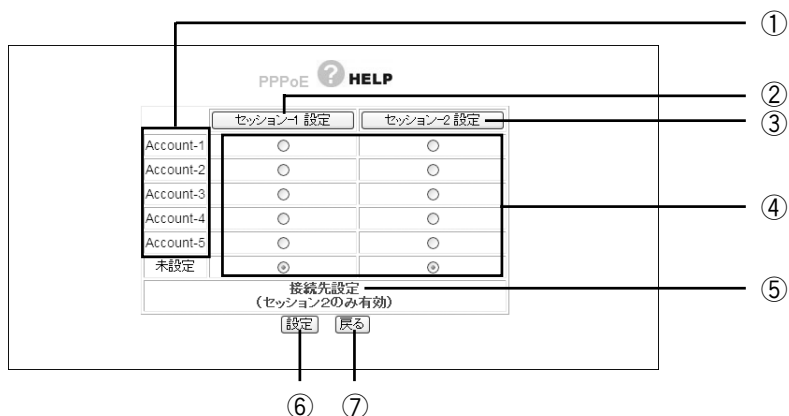
・ IP自動取得(DHCP)/IP固定

Yahoo!BB、CATVなど、IPアドレスを自動で取得する場合や、IPアドレスを固定で割り当てられている場合に選択します。詳しい設定画面は「IP自動取得(DHCP)/IP固定」画面(P.60)をご覧ください。

IP自動取得(DHCP)の設定方法は付属の「お使いの手引き」の「PART2 設定する-ルータをお使いの環境にあわせて設定する」をご覧ください。

■ PPPoE

PPPoE アカウント設定とセッション設定を管理します。



① アカウント名

アカウント名を表示します。表示する内容を「アカウント設定」画面(P.59)で変更することができます。

② [セッション-1 設定]

セッション-1の設定を行います。詳しい設定画面は「セッション-1 設定」(P.55)をご覧ください。

③ [セッション-2 設定]

マルチPPPoEを使用するためにセッション-2の設定を行います。

セッション-2を接続する場合は、⑤「接続先設定(セッション2のみ有効)」も設定する必要があります。詳しい設定画面は「セッション-2設定」(P.58)をご覧ください。

マルチPPPoEの設定方法は「マルチPPPoEで2つの接続先を使い分けるには」(P.34)をご覧ください。

④ アカウント選択

PPPoEアカウントとセッション-1、セッション-2の組み合わせを設定します。

⑤ 接続先設定(セッション2のみ有効)

マルチPPPoEを使用する場合にどの通信をセッション-1で行い、どの通信をセッション-2で行うかを設定します。詳しい設定画面は「接続先設定」(P.58)をご覧ください。

⑥ [設定]

設定した内容を保存します。

⑦ [戻る]

「トップページ」画面(P.51)に戻ります。

○セッション-1 設定

セッション-1の設定を行います。設定前にプロバイダより指定された「接続ユーザーID」、「接続パスワード」などをご確認ください。

① セッション選択

設定したいセッションを選択します。「PPPoE」画面(P.54)で「セッション-1 設定」をクリックした場合はセッション-1が選択されています。

② [接続]

無通信時にクリックすると接続します。

③ [切断]

通信中にクリックすると切断します。

④ 接続状態

現在のセッションの接続状態を表示します。

⑤ セッションID

セッションIDを表示します。

⑥ アカウント選択

使用するアカウントを選択・登録できます(「セッション-1」で使用したアカウントは「セッション-2」では使用できません)。

アカウントを選択して、⑨～⑱にプロバイダより指定された設定項目を設定します。

⑦ [アカウント名変更]

「PPPoE」画面(P.54)のアカウント選択で表示される名称を変更することができます。詳しい設定画面は「アカウント設定」(P.59)をご覧ください。

⑧ MACアドレス

本商品のWAN側(インターネット側)MACアドレスを表示します。

⑨ 接続ユーザーID

プロバイダ(ISP)より指定されたアカウントの接続ユーザーIDを入力します。

⑩ 接続パスワード

プロバイダより指定されたアカウントの接続パスワードを入力します。

⑪ 接続パスワードの確認

確認のため、再度⑩で入力した接続パスワードを入力します。

⑫ 接続方法

接続開始の方法を設定します。

・ 常時接続

常時インターネットに接続します。何らかの原因で通信が切断された場合も自動的に再接続します。

・ トリガ接続

インターネットへの通信が発生したときに自動的に接続します。何らかの原因で通信が切断された場合は、次にインターネットへの通信が発生したときに接続します。

・ 手動接続

[接続]をクリックしない限りインターネットに接続しません。

⑬ 無通信時間監視

インターネットへの通信を行わなくなってから自動切断までの時間(分)を設定します(⑫で「トリガ接続」または「手動接続」を選択した場合のみ)。

⑭ MTU値

MTUの値を設定します。右側の「自動調整」にチェックを付けるとMTU値が自動的に調整されます。「自動調整」のチェックを外すと576～1492バイトの範囲で設定できます。

⑮ PPPoEサービス・タイプ

使用するPPPoEのサービスタイプを選択します。

・ PPPoE

通常のPPPoE接続、またはセッション-2を使用したマルチPPPoEを利用する場合に設定します。⑩ルータIPおよび⑪サブネットマスクは設定しません。

・ Unnumbered IP

複数のグローバルIP^{※1}を割り当てるサービスを利用する場合に設定します(セッション-2使用不可)。⑩「ルータIP」と⑪「サブネットマスク」に設定するグローバルIPは、本商品のIPアドレスとしてWAN側/LAN側IPアドレスに設定されます。本商品に接続するパソコンにもグローバルIPを固定で設定します。

Unnumbered IPの設定方法は「複数固定IPサービスを利用するには(Unnumbered IP/Unnumbered IP + Private IP)」(P.37)をご覧ください。

・ Unnumbered IP+Private IP

複数のグローバルIPを割り当てるサービスとプライベートIP^{※2}を同時に利用する場合に設定します(セッション2使用不可)。

複数のグローバルIPを割り当てるサービスを利用しつつ、IPマスカレード^{※3}機能を利用してプライベートIPのパソコンを接続することができます。グローバルIPをパソコンで使用する場合は、パソコンにグローバルIPを固定で設定します。プライベートIPをパソコンで使用する場合は、IP自動取得に設定します。

Unnumbered IPの設定方法は「複数固定IPサービスを利用するには(Unnumbered IP/Unnumbered IP + Private IP)」(P.37)をご覧ください。

※1 インターネットで使用されるIPアドレスのことです。グローバルIPアドレスとも呼びます。

※2 イントラネットやLAN組織内で自由に発行できるIPアドレスのことです。プライベートIPアドレスとも呼びます。

※3 1つのグローバルIPを複数のパソコンで共有する機能(ルータ機能)です。プライベートIPとグローバルIPを相互に変換することで実現できます。

⑩ ルータIP

複数固定IPサービスでプロバイダから割り当てられたグローバルIPを入力します(⑩で「Unnumbered IP」または「Unnumbered IP+Private IP」を選択した場合のみ)。

⑪ サブネットマスク

複数固定IPサービスでプロバイダから割り当てられたサブネットマスクを入力します(⑩で「Unnumbered IP」または「Unnumbered IP+Private IP」を選択した場合のみ)。

⑫ DNSサーバ

プロバイダから指定されたDNSサーバのIPアドレスを設定します。

・ 自動設定

プロバイダからDNSサーバが自動で割り当てられる場合に選択します。

※サーバの値は自動的に設定されます。

・ マニュアル設定

プロバイダからDNSサーバが指定されている場合に選択し、IPアドレスを入力します。DNSサーバが複数指定されている場合はDNSサーバ1およびDNSサーバ2に入力します。

⑬ [設定]

設定した内容を保存します。

⑭ [取消]

[設定]をクリックする前に限り、変更する前の状態に戻します。

⑮ [戻る]

「PPPoE」画面(P.54)に戻ります。

○セッション-2 設定

セッション-2 の設定を行います。

① セッション選択

設定したいセッションを選択します。「PPPoE」画面(P.54)で[セッション-2 設定]をクリックした場合はセッション-2が選択されています。

※そのほかの項目はセッション-1と同じ設定内容です。

○接続先設定（セッション2のみ有効）

セッション2 経由で通信するルールを設定します。

セッション2でフレッツ・スクウェアに接続する場合は「マルチ PPPoE で2つの接続先を使い分けるには」(P.34) をご覧ください。

① 設定リスト

③～⑨で設定した内容を表示します。

② [戻る]

「PPPoE」画面(P.54)に戻ります。

③ 接続アカウント

ルールを適用するアカウントを選択します。

④ ルール選択

ルールを選択します。

・ドメイン名

接続先をドメインで指定する場合に選択します。

⑤「ドメイン名」に入力します。

・IPアドレス

接続先をIPアドレスで指定する場合に選択します。

⑥「IPアドレス」に値を入力し、⑨「プロトコル」で使用するプロトコルを選択します。

・ポート番号

接続先をポート番号で指定する場合に選択します。

⑧「開始ポート」および「終了ポート」に値を入力し、⑨「プロトコル」で使用するプロトコルを選択します。

・ネットワーク

接続先をネットワークで指定する場合に選択します。

⑦「ネットワーク」に範囲を入力し、⑨「プロトコル」で使用するプロトコルを選択します。

・IPアドレス+ポート番号

接続先をIPアドレスとポート番号で使用する場合に選択します。

⑥「IPアドレス」と⑧「開始ポート」および「終了ポート」に値を入力し、⑨「プロトコル」で使用するプロトコルを選択します。

・ネットワーク+ポート番号

接続先をネットワークとポート番号で指定する場合に選択します。

⑦「ネットワーク」と⑧「開始ポート」および「終了ポート」に値を入力し、⑨「プロトコル」で使用するプロトコルを選択します。

⑤ ドメイン名

④「ルール選択」で「ドメイン名」を選択した場合に入力します。

⑥ IPアドレス

④「ルール選択」で「IPアドレス」および「IPアドレス+ポート番号」を選択した場合に入力します。

⑦ ネットワーク

④「ルール選択」で「ネットワーク」および「ネットワーク+ポート番号」を選択した場合に入力します。

⑧ 開始ポート／終了ポート

④「ルール選択」で「ポート番号」、「IPアドレス+ポート番号」、「ネットワーク+ポート番号」を選択した場合に入力します。

⑨ プロトコル

④「ルール選択」で「ドメイン名」以外を選択した場合に、対象のプロトコルを「ALL(TCP/UDP/ICMP)」、「TCP」、「UDP」から選択できます。

⑩ 【登録】

入力した内容を登録します。

○アカウント設定

「セッション-1 設定」画面（P.55）で「アカウント名変更」をクリックすると表示されます。アカウント名を変更できます。

アカウント	Account
アカウント1	Account-1
アカウント2	Account-2
アカウント3	Account-3
アカウント4	Account-4
アカウント5	Account-5

①

② ③

① アカウント名

アカウント名を入力します。

② 【設定】

設定した内容を保存します。

③ 【戻る】

設定を変更せず「セッション-1 設定」画面（P.55）に戻ります。

■ IP 自動取得 (DHCP) / IP 固定

IP アドレスの自動割り当て、または固定 IP を割り当てているプロバイダでのみ使用できます。

The screenshot shows a configuration window titled "IP自動取得(DHCP)/IP固定 ? HELP". It contains the following fields and controls:

- ① MACアドレス**: A text field showing "XX.XX.XX.XX.XX.XX".
- ② タイプ**: Radio buttons for "IP自動取得(DHCP)" (selected) and "IP固定".
- ③ ドメイン名**: A text field.
- ④ コンピュータ名**: A text field containing "corega.home".
- ⑤ MTU 値**: A text field showing "1500" with a note "1500 バイト (576 ~ 1500)".
- ⑥ DNSサーバ**: Radio buttons for "自動設定" (selected) and "マニュアル設定". Below are two rows of text fields for "DNSサーバ1" and "DNSサーバ2".
- ⑦ 設定**: A button at the bottom.
- ⑧ 取消**: A button at the bottom.
- ⑨ 戻る**: A button at the bottom.

① MACアドレス

本商品のWAN側のMACアドレスを表示します。

② タイプ

IPアドレスの取得方法を選択します。

・ IP自動取得(DHCP)

プロバイダからIPアドレスを指定されていない場合に選択します。プロバイダから自動的にIPアドレスなどのインターネット接続に必要な情報を取得します。

・ IP固定

プロバイダからIPアドレスを指定された場合に選択します。「WAN側IPアドレス」、「サブネットマスク」、「デフォルト・ゲートウェイ」を手動で設定します(「IP固定」を選択した場合のみ表示されます)。

③ ドメイン名

プロバイダから指定された場合、ドメイン名を入力します(②で「IP自動取得(DHCP)」を選択した場合のみ表示されます)。

④ コンピュータ名

プロバイダから指定された場合、コンピュータ名を入力します(②で「IP自動取得(DHCP)」を選択した場合のみ表示されます)。

⑤ MTU値

576から1500までの範囲で割り当てることができます(初期値：1500バイト)。接続環境に合わせて変更してください。

⑥ DNSサーバ

プロバイダから指定されたDNSサーバのIPアドレスを入力します。

・ 自動設定

DNSサーバのIPアドレスを知らされていないときや自動割り当ての場合に選択します。

・ マニュアル設定

プロバイダよりDNSサーバのIPアドレスが指定されている場合に選択します。DNSサーバのIPアドレスを「DNSサーバ1」、「DNSサーバ2」に入力します。

⑦ [設定]

設定した内容を保存します。

⑧ [取消]

[設定] をクリックする前に限り、変更する前の状態に戻します。

⑨【戻る】

「トップページ」画面(P.51)に戻ります。

■ダイナミック DNS

インターネット側からIPアドレスではなく、URLを使用してLAN内のバーチャルサーバに接続できるように設定できます。この機能を使用することによって、ダイナミックIPアドレスのようなIPアドレスが固定されないサービスにも対応します。

The screenshot shows the 'Dynamic DNS' configuration window. It contains a header with 'ダイナミック DNS' and a 'HELP' icon. Below the header is explanatory text about using domain names to connect to virtual servers. It lists four supported services: corede.net (free), DynDNS.org (free), IvyNetwork (paid), and @Net DDNS (paid). The configuration form has five main fields: 'Dynamic DNS' (a dropdown menu set to '無効'), 'Login Name', 'Login Password', 'Domain Name', and 'IP Check Interval' (a dropdown menu set to '1時間'). At the bottom are four buttons: '設定' (Set), '取消' (Cancel), '戻る' (Back), and '更新' (Update). Numbered callouts 1 through 9 point to these elements: 1 points to the 'Dynamic DNS' dropdown, 2 to the 'Login Name' field, 3 to the 'Login Password' field, 4 to the 'Domain Name' field, 5 to the 'IP Check Interval' dropdown, 6 to the '設定' button, 7 to the '取消' button, 8 to the '戻る' button, and 9 to the '更新' button.

① ダイナミックDNS

利用するDNSサービスを選択します(初期値：無効)。

② ログイン名

ダイナミックDNSサービスに登録したログイン名を入力します。

③ ログイン パスワード

ダイナミックDNSサービスに登録したパスワードを入力します。

④ ドメイン名

ダイナミックDNSサービスに登録したドメイン名を入力します。必ず取得したドメイン名を使用してください。

⑤ IPチェック時間

取得したドメイン名とIPアドレスの整合性を指定時間で確認します。

⑥【設定】

設定した内容を保存します。

⑦【取消】

【設定】をクリックする前に限り、変更する前の状態に戻します。

⑧【戻る】

「WAN側設定(インターネット)」画面(P.53)に戻ります。

⑨【更新】

ダイナミックDNSの状態を更新します。

■パススルー

各パケットをルーティングせずに透過する場合に設定します。



① ダイレクトPPPoE

PPPoEパススルーの有効／無効を選択します。

- ・有効

ダイレクトPPPoEを有効にします。本商品に接続したパソコンから外部に直接PPPoE接続する場合に有効にします。

- ・無効

ダイレクトPPPoEを無効にします(初期値)。

② VPNパススルー

VPNパススルーの有効／無効を選択します。

- ・有効

VPNパススルーを有効にします。本商品に接続したパソコンから外部に直接VPN接続する場合に有効にします(初期値)。

- ・無効

VPNパススルーを無効にします。

③ IPv6ブリッジ

IPv6ブリッジの有効／無効を選択します。

- ・有効

IPv6ブリッジを有効にします。本商品に接続したパソコンから直接外部にIPv6接続する場合に有効にします(初期値)。

- ・無効

IPv6ブリッジを無効にします。

④ [設定]

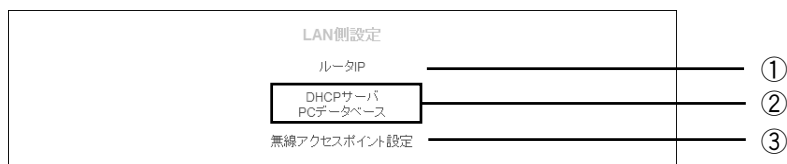
設定した内容を保存します。

⑤ [戻る]

「WAN側設定(インターネット)」画面(P.53)に戻ります。

●LAN側設定

LAN 側の詳細な設定を行います。



①ルータIP

LAN側の設定を変更できます(本ページ)。

②DHCPサーバ／PCデータベース

DHCPサーバ機能や、PCデータベースの設定を変更できます(P.64)。

③無線アクセスポイント設定

無線アクセスポイント機能の設定を変更できます(P.67)。

■ルータ IP

LAN 側の設定を変更したい場合に設定します。

The screenshot shows the "ルータIP" (Router IP) configuration screen. It has a title bar with a question mark and "HELP". The form contains four fields: "MACアドレス" (MAC Address) with value "XX XX XX XX XX XX", "LAN側IPアドレス" (LAN Side IP Address) with value "192.168.1.1", "サブネットマスク" (Subnet Mask) with value "255.255.255.0", and "URLホーム" (URL Home) with value "corega.home". Below the fields are three buttons: "設定" (Settings), "取消" (Cancel), and "戻る" (Back). Numbered callouts ① through ⑦ point to these elements: ① points to the MAC address field, ② to the IP address field, ③ to the subnet mask field, ④ to the URL home field, ⑤ to the "設定" button, ⑥ to the "取消" button, and ⑦ to the "戻る" button.

①MACアドレス

本商品のLAN側のMACアドレスが表示されます。

②LAN側IPアドレス

本商品のLAN側のIPアドレスを入力します。IPアドレスの値は「0～255」までの数字と「.」(ドット)で入力します(初期値：192.168.1.1)。

③サブネットマスク

本商品のLAN側のサブネットマスクを入力します。サブネットマスクの値は「0～255」までの数字と「.」(ドット)で入力します(初期値：255.255.255.0)。

④URLホーム

設定したURLをWebブラウザのアドレス欄に入力すると、「トップページ」画面(P.51)を表示させることができます(初期値：corega.home)。



- ・アドレスには「.」(ドット)を組み込んで3～24文字以内で設定します。
- ・「.」(ドット)はアドレスの先頭、末尾には使用しないでください。

⑤【設定】

設定した内容を保存します。

⑥【取消】

【設定】をクリックする前に限り、変更する前の状態に戻します。

⑦【戻る】

「LAN側設定」画面(P.63)に戻ります。

■ DHCP サーバ／PC データベース

○ DHCP サーバ

DHCP サーバの設定を変更する場合に各項目の設定をします。

The screenshot shows the '詳細設定 / DHCPサーバ' (Detailed Settings / DHCP Server) screen. It includes a 'HELP' icon. The configuration fields are as follows:

DHCPサーバ	有効	①
リース期限継続方法	期限指定	②
リース期限	2 日 0 (0~23 時間 0 (0~59) 分)	③
DHCP開始アドレス	192.168.1.21	④
DHCP終了アドレス	192.168.1.50	⑤

At the bottom, there are three buttons: ⑥ [設定] (Settings), ⑦ [取消] (Cancel), and ⑧ [戻る] (Back).

① DHCPサーバ

DHCPサーバの有効／無効を選択します。有効にすると自動的にパソコンにIPアドレスを割り当てます。

・有効

DHCPサーバ機能を使用します(初期値)。

・無効

DHCPサーバ機能を使用しません。

② リース期限継続方法

DHCPサーバでリースされるIPアドレスのリース期限継続方法を選択します。

・期限指定

DHCPサーバから割り当てられるIPアドレスを定期的に更新します(初期値)。

期限は③「リース期限」で設定します。

・無期限

DHCPサーバから割り当てられるIPアドレスに期限を設定しません。

③ リース期限

DHCPサーバでリースされるIPアドレスのリース期限を分単位で指定します(初期値：2日)。

※②で「期限指定」を選択している場合のみ設定できます。

④ DHCP開始アドレス

DHCPサーバが割り当てる最初のIPアドレスを入力します(初期値：192.168.1.21)。

⑤ DHCP終了アドレス

DHCPサーバが割り当てる最後のIPアドレスを入力します(初期値：192.168.1.50)。

⑥【設定】

設定した内容を保存します。

⑦【取消】

「設定」をクリックする前に限り、変更する前の状態に戻します。

⑧【戻る】

「LAN側設定」画面(P.63)に戻ります。

○ PC データベース

本商品に接続するクライアントパソコンを登録することができます。IPアドレスを自動的に取得するパソコンは自動で登録されます。この操作はPCデータベースのリストに表示されていない場合や、IPアドレスを固定設定しているパソコンに行います。

パソコン名	IPアドレス	タイプ	MACアドレス	DHCPクライアント	操作
XXXXXXXX	192.168.1.21	LAN	XX:XX:XX:XX:XX:XX	自動取得 (DHCPクライアント)	編集

① 編集

② 追加

③ 再読み込み

① 編集

登録済みのクライアントパソコンの設定を変更することができます。

② [追加]

「PCデータベース(詳細設定)」(本ページ)を開き、パソコンを手動でPCデータベースに追加できます。

③ [再読み込み]

現在の情報を更新します。

○ PC データベース (詳細設定)

「PC データベース」画面 (本ページ) で [追加] をクリックすると表示されます。手動で PC データベースに登録することができます。

PCデータベース(詳細設定) ? HELP

PCリストに新しく追加または変更や削除を行うことができます。もし追加したパソコンが接続されていない場合は、そのパソコンのMACアドレスを登録しておく必要があります。

パソコン名:

IPアドレス: ☐ 自動取得 (DHCPクライアント) ☐ 固定取得 (DHCPクライアント) 192.168.1. ☐ 固定設定 (DHCP範囲以外)

接続タイプ:

MACアドレス: ☐ 自動検索 (パソコンが接続されている状態) ☐ MACアドレス:

① パソコン名

② IPアドレス

③ MACアドレス

④ PCデータ追加

⑤ データの削除

⑥ 戻る

① パソコン名

クライアントパソコンの「ホスト名」を入力します。

② IPアドレス

IPアドレスの取得方法を選択します。

・ 自動取得 (DHCPクライアント)

パソコンがDHCPクライアント (Windowsでは「IPアドレスを自動的に取得」) に設定されている場合に、本商品は「DHCPサーバ」画面 (P.64) で設定した内容でパソコンにIPアドレスを割り当てます (初期値)。

IPアドレスは通常変わることはありませんが、リース期間に達した場合や、長時間ネットワークから切断していたあとで再接続した場合に変わる場合があります。

- ・ **固定取得(DHCPクライアント)**

パソコンがDHCPクライアント(Windowsでは「IPアドレスを自動的に取得」)に設定されている場合に、本商品は「DHCPサーバ」画面(P.64)で設定した内容でパソコンにIPアドレスを割り当てます。パソコンに毎回決まったIPアドレスを割り当てたい場合を選択します。最後の空欄に、本商品のDHCPサーバ機能で設定した範囲内で1～254の任意の数字を入力します。

- ・ **固定設定(DHCP範囲以外)**

パソコンが固定IPアドレスを使用している場合を選択します。パソコンに設定しているIPアドレスを入力します。

- ・ **接続タイプ**

本商品とパソコン間の接続方法を選択します。有線接続しているパソコンは「LAN」を、無線接続しているパソコンは「WLAN」を選択します。

③ MACアドレス

MACアドレスに関するオプションを選択します。

- ・ **自動検索(パソコンが接続されている状態)**

①「パソコン名」と②「IPアドレス」の設定から登録したいパソコンのMACアドレスを自動取得します。本商品にパソコンを接続している状態で自動検索できます。自動検索が完了すると、MACアドレス欄に検索されたMACアドレスが表示されます。

- ・ **MACアドレス**

登録したいパソコンのMACアドレスがわかる場合に直接入力します。本商品にパソコンを接続していない状態でも登録することができます。

MACアドレスは「ハードウェアアドレス」や「物理アドレス」、または「ネットワークアダプタアドレス」と呼ばれることがあります。本商品はパソコンを識別するためにMACアドレスを使用します。入力欄を空白にしたままでは登録することはできません。

④ [PCデータ追加]

本商品のリストに新しいパソコンを加えます。

※MACアドレス③の「自動検索」が選択されている場合、パソコン検索して取得したMACアドレスを表示します。追加するには再度「PCデータ追加」をクリックします。

⑤ [データの削除]

画面上で入力した値をクリアすることができます。

⑥ [戻る]

「PCデータベース」画面(P.65)に戻ります。

■無線アクセスポイント設定

無線 LAN のネットワーク名（SSID）や、セキュリティなどの詳細な設定ができます。



本商品の無線アクセスポイント機能が無効の場合は表示されません。

① Wi-Fi protected Setup設定

Wi-Fi Protected Setupの設定を行います(本ページ)。

② 802.11g/b 設定

無線LAN通信の設定を行います(P.68)。

③ 802.11g/b セキュリティ設定

無線LAN通信のセキュリティの設定を行います(P.70)。

④ アクセス制限

無線LANアダプタ(パソコン)による無線アクセスの可否の設定を行います(P.73)。

⑤ マルチAP設定

セカンド SSIDのセキュリティの設定を行います(P.74)。

○ Wi-Fi Protected Setup

対応機器間の無線 LAN セキュリティを簡単に設定できる Wi-Fi Protected Setup の設定を表示します。Wi-Fi Protected Setup は対応機種のみ使用できます。通常は設定画面で設定を変更する必要はありません。Wi-Fi Protected Setup で無線セキュリティを設定する場合は、付属の「お使いの手引き」または対応機種に付属の「無線クライアントユーティリティ詳細設定ガイド」をご覧ください。



Wi-Fi Protected Setup に対応する無線 LAN アダプタについての最新情報はコレガホームページ (<http://corega.jp/>) をご覧ください。

・ Wi-Fi Protected Setup 有効時

・ Wi-Fi Protected Setup 無効時

○ 802.11g/b 設定

IEEE802.11g/b通信の設定を行います。

設定項目	初期値	説明
ネットワーク名 (SSID)	xxxxxxxxxxxx	①
モード	802.11g/b	②
チャンネル	自動設定	③
Superモード	有効	④
eXtended Range	有効	⑤
転送レート	Auto	⑥
IPv6マルチキャスト通信	無効	⑦
ステルスAP	無効	⑧
電波強度	最大	⑨
ビーコン間隔	100 ms (初期値: 100, 20~1000)	⑩
RTSしきい値	2346 (初期値: 2346, 256~2346)	⑪
パケット分割のしきい値	2346 (初期値: 2346, 256~2346)	⑫

⑬ 設定 ⑭ 取消 ⑮ 戻る

① ネットワーク名(SSID)

無線LANに接続する機器を識別するネットワークグループ名です。接続するすべてのパソコン(無線LANアダプタ)に同じ名前を設定します。

※工場出荷時のSSIDは本商品左側面の「ネットワーク名(SSID/MAC)」に記載されています。

② モード

802.11の動作モードを設定できます。

・ 802.11g/b

802.11gと802.11bを使用できます。802.11gと802.11bを混在させる場合に選択します(初期値)。

・ 802.11g

802.11gのみを使用できます。

・ 802.11b

802.11bのみを使用できます。

③ チャンネル

使用する電波の周波数(無線チャンネル)を設定できます。

・ 自動設定

空きチャンネル自動検索機能で最適なチャンネルを自動で設定します(初期値)。

※通常は変更する必要はありません。

・ 1~13

チャンネルを指定・固定したい場合に1~13チャンネルのいずれかを選択します。

④ Superモード

無線通信速度を向上させることができるSuperモードを設定できます。

・ 有効

「Super A/G」および「Super G」モードに対応した無線機器と通信するときに、バースト転送およびデータ圧縮を行い、通信速度を向上させます。

・ 無効

Superモードを使用しません。

⑤ eXtended Range

通信距離を大幅に伸ばすことができるeXtended Rangeを設定できます。

- ・有効

eXtended Rangeに対応した無線機器と通信するときに、通信距離を伸ばすことができます。

- ・無効

eXtended Rangeを使用しません。

⑥転送レート

転送レート(無線LANの通信速度)を「Auto、1～54Mbps」で変更できます(初期値：Auto)。

※通常は変更する必要はありません。

⑦IPv6マルチキャスト通信

IPv6マルチキャスト通信の有効／無効を設定できます。

- ・有効

IPv6マルチキャスト通信サービス(4thメディアなど)を、セットトップボックス(STB)と接続して使用する場合に選択します。

- ・無効

IPv6マルチキャスト通信を使用しません(初期値)。

⑧ステルスAP

無線LANアダプタを持つパソコンから本商品のSSIDを検索されないようにしたり、SSIDを「ANY」や空白にしているパソコンからのアクセスを拒否したりできます。

- ・有効

ステルスAPを有効にします。

- ・無効

ステルスAPを無効にします(初期値)。

⑨電波強度

本商品の電波出力の強度を「最大」(初期値)、「50%」、「25%」、「12.5%」、「最小」から選択できます。

※通常は変更する必要はありません。

⑩ビーコン間隔

アクセスポイントが常に発信する、アクセスポイントの情報の入ったショートパケット(ビーコン)の送信間隔を「20～1000」msで設定できます(初期値：100ms)。

※通常は変更する必要はありません。

⑪RTSしきい値

無線LANのパケットを送信する前に送信するRTS(送信要求)パケットのしきい値を「256～2346」で設定できます(初期値：2346)。

※通常は変更する必要はありません。

⑫パケット分割のしきい値

無線LANのパケットを分割するしきい値を「256～2346」で設定できます(初期値：2346)。

※通常は変更する必要はありません。

⑬【設定】

設定した内容を保存します。

⑭【取消】

【設定】をクリックする前に限り、変更する前の状態に戻します。

⑮【戻る】

「無線アクセスポイント設定」画面(P.67)に戻ります。

○ 802.11g/b セキュリティ設定

802.11g/b通信のセキュリティの設定を行います。

① 認証方式

無線セキュリティの認証方式を選択します。

- **Open System**
無線セキュリティを使用しない、またはWEPを使用する場合に選択します。
- **Shared Key**
WEPを使用する場合に選択します。
- **WPA/WPA2-EAP**
WPA2-EAPまたはWPA-EAPを使用する場合に選択します。
- **WPA/WPA2-PSK**
WPA2-PSKまたはWPA-PSKを使用する場合に選択します。
- **WPA2-PSK**
WPA2-PSKのみを使用する場合に選択します。
- **WPA2-EAP**
WPA2-EAPのみを使用する場合に選択します。
- **WPA-PSK**
WPA-PSKのみを使用する場合に選択します。
- **WPA-EAP**
WPA-EAPのみを使用する場合に選択します。

② 暗号方式

無線セキュリティの暗号方式を設定します。①「認証方式」によって、選択できる暗号方式が変わります。

- **無効**
Open Systemを使用する場合に選択できます。
無線セキュリティを使用しません。
- **WEP**
Open SystemまたはShared Keyを使用する場合に選択できます。
暗号化にWEPを使用します。
- **自動(AES/TKIP)**
WPA/WPA2-EAP、WPA/WPA2-PSK、WPA-PSK、WPA-EAPを使用する場合に選択できます。
暗号化にAESまたはTKIPを使用します。

- **AES**

WPA/WPA2-EAP、WPA/WPA2-PSK、WPA2-PSK、WPA2-EAP、WPA-PSK、WPA-EAPを使用する場合に選択できます。

暗号化にAESを使用します。

- **TKIP**

WPA/WPA2-EAP、WPA/WPA2-PSK、WPA-PSK、WPA-EAPを使用する場合に選択できます。

暗号化にTKIPを使用します。



AES > TKIP > WEP の順番で暗号の解読が困難になります。

③ 暗号化

WEPを選択した場合に、暗号強度を64Bit、128Bit、152Bitの16進数またはASCII文字から選択します。

④ WEPキー

③暗号化の選択後、WEPキー(暗号キー)を入力し、「キー1～4」から1つを選択します。「キー1～4」のそれぞれに、設定する暗号キーを直接入力します。



③暗号化で128Bit または 152Bit を選択した場合、キー1のみ使用できます。

⑤ WPA共有キー

WPA/WPA2-PSK、WPA2-PSK、WPA-PSKを選択した場合に、初回アクセス時に使用する任意の共有キーを「ASCII文字(8～63文字)」(初期値)または「16進数(64文字)」で入力します。

※通常は「ASCII文字(8～63文字)」を使用してください。

⑥ DTIM

DTIM(配信トラフィック・インディケータ・メッセージ)の通信間隔の値を「1～5」に設定します(初期値：1)。

※通常は変更する必要はありません。

⑦ プリアンブルモード

プリアンブルのモードを「自動」(初期値)、「短いプリアンブル」、「長いプリアンブル」から設定できます。

※通常は変更する必要はありません。

⑧ 更新間隔

WPA共有キーの更新間隔を「0、300～1800秒」で設定します(初期値：300)。

※更新間隔を「0」に設定するとWPA共有キーを更新しません。

⑨ セキュリティ サーバ

WPA/WPA2-EAP、WPA2-EAP、WPA-EAPを使用する場合に[RADIUS サーバ設定]がクリックできるようになります。[RADIUS サーバ設定]をクリックすると「RADIUS サーバ設定」画面(P.72)が表示されます。

⑩ [設定]

設定した内容を保存します。

⑪ **【取消】**

「設定」をクリックする前に限り、変更する前の状態に戻します。

⑫ **【戻る】**

「無線アクセスポイント設定」画面(P.67)に戻ります。

⑬ **【セキュリティ情報書出し】**

現在のセキュリティ設定をテキストで表示します。

○ **RADIUS サーバ設定**

RADIUS サーバの設定をします。

The screenshot shows the 'RADIUS サーバ設定' (RADIUS Server Setting) screen. At the top, there is a title bar with 'RADIUS サーバ設定', a help icon, and the word 'HELP'. Below the title bar, there are three input fields: 'RADIUS サーバIP:' with four small boxes for IP address entry, 'RADIUS で使用するポート:' with a text box containing '1812', and 'シークレット:' with a long text box. At the bottom of the form, there are three buttons: '設定' (Set), '取消' (Cancel), and '戻る' (Back). Numbered callouts point to these elements: ① points to the RADIUS server IP input field, ② points to the RADIUS port input field, ③ points to the secret input field, ④ points to the '設定' button, ⑤ points to the '取消' button, and ⑥ points to the '戻る' button.

① **RADIUS サーバIP**

RADIUSサーバIPアドレスを設定します。

② **RADIUS で使用するポート**

RADIUSサーバで使用するポート番号を設定します(初期値：1812)。

③ **シークレット**

RADIUSサーバと本商品の間で使用する共有キー(共有パスワード)を設定します。32文字以内の半角英数または半角記号で設定します。

④ **【設定】**

設定した内容を保存します。

⑤ **【取消】**

「設定」をクリックする前に限り、変更する前の状態に戻します。

⑥ **【戻る】**

「802.1g/b セキュリティ設定」画面(P.70)に戻ります。

○アクセス制限

接続を許可する無線クライアントの設定などを行います。

①無線端末間通信

無線端末（パソコンなどのクライアント）同士の通信の制限を設定できます。

- ・有効

無線端末間の通信を有効にします（初期値）。

- ・無効

無線端末間の通信を無効にします。不特定多数の端末がアクセスするような環境でプライバシーを守ることができます。

②無線－有線間端末通信

有線端末と無線端末間の通信の制限を設定できます。

- ・有効

有線端末と無線端末間の通信を有効にします（初期値）。

- ・無効

有線端末と無線端末間の通信を無効にします。不特定多数の端末がアクセスするような環境でプライバシーを守ることができます。

③MACアドレスフィルタリング

- ・有効

MACアドレスを登録した端末のみ接続を許可します。

- ・無効

すべての端末が接続できます（初期値）。

④MACアドレス

通信を許可したいMACアドレスを手動でリストに登録することができます。MACアドレスを入力して[追加]をクリックします。

⑤リスト

PCデータベースに登録されたクライアントの中から無線端末を表示します。

リストでチェックを付けたクライアントのみ通信を許可します。

⑥[設定]

設定した内容を保存します。

⑦【取消】

「設定」をクリックする前に限り、変更する前の状態に戻します。

⑧【戻る】

「無線アクセスポイント設定」画面(P.67)に戻ります。

○マルチ AP 設定

背面の「マルチ AP 機能スイッチ」を使用して作成されたセカンドSSIDの設定をすることができます。

①マルチAP機能

マルチAP機能の状態を表示します。

マルチAP機能のON/OFFは背面の「マルチAP機能スイッチ」で操作します。

②ネットワーク名(SSID)

セカンドSSIDのネットワーク名が表示されます。

工場出荷時の状態のセカンドSSIDは「CG-Guest」です。

③転送レート

「自動」「1 Mbps」～「54 Mbps」から設定することができます。

④ステルスAP

無線LANアダプタを持つパソコンから本商品のSSIDを検索されないようにしたり、SSIDを「ANY」や空白にしているパソコンからのアクセスを拒否したりできます。

・有効

ステルスAPを有効にします。

・無効

ステルスAPを無効にします(初期値)。

⑤暗号方式

無線セキュリティの暗号方式を設定します。

・無効

無線セキュリティを使用しません(初期値)。

・WEP

暗号化にWEPを使用します。

⑥暗号化

⑤で「WEP」を選択したときに、暗号強度を64Bitまたは128Bit、16進数またはASCII文字列から選択します。

⑦WEPキー

⑥暗号化の選択後、WEPキー(暗号キー)を「キー1」に直接入力します。

⑧【設定】

設定した内容を保存します。

⑨【取消】

【設定】をクリックする前に限り、変更する前の状態に戻します。

⑩【戻る】

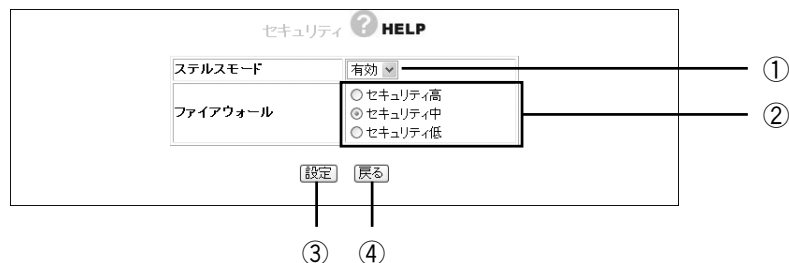
「無線アクセスポイント設定」画面(P.67)に戻ります。

●セキュリティ設定

WAN 側からのアクセスに対するセキュリティ設定ができます。



本商品のルータ機能が無効の場合は表示されません。



①ステルスモード

WAN(インターネット)側へのPINGリクエスト(通信確認リクエスト)の応答を設定できます。

・有効

WAN側からのPINGに応答しなくなり、本商品の存在を隠すことができます(初期値)。

・無効

WAN側からのPINGに応答し、本商品の存在を確認できます。お互いの存在を確認しながらインターネット接続を行う場合に選択します。

②ファイアウォール

ファイアウォールを通過するパケットのデータを読み取り、内容を判断して自動的にポートを開放・閉鎖します。セキュリティが高いほど安全ですが、通信速度が遅くなる場合があります。

③【設定】

設定した内容を保存します。

④【戻る】

「トップページ」画面(P.51)に戻ります。

■アクセス制限

本商品に接続しているパソコンから、インターネットへのアクセスの許可または禁止を設定することができます。

① 制限するIPアドレス

アクセスを制限したいIPアドレスの範囲を登録します。

② 制限するサービス

アクセスを制限するサービスを一覧「WWW(ウェブブラウザ)」、「E-mail送信」、「E-mail受信」、「Secure HTTP」、「FTP」、「全てのTCPポート」、「全てのUDPポート」、「ユーザ定義」(初期値)から選択します。

③ プロトコル

制限するサービスで「ユーザ定義」を選択した場合に、プロトコルを「TCP」(初期値)、「UDP」から選択します。

④ 制限するポート範囲

制限するサービスで「ユーザ定義」を選択した場合に、制限するポート範囲を指定します。

⑤ スケジューリング(スケジュール設定を使用します)

制限する時間を選択することができます。

・常に制限

常時アクセスを制限します。

・スケジュール

「スケジュール」画面(P.79)で登録した時間でアクセス制限をかけることができます。

⑥ [登録]

設定した内容で登録します。

⑦ アクセス制限テーブル(最大10まで)

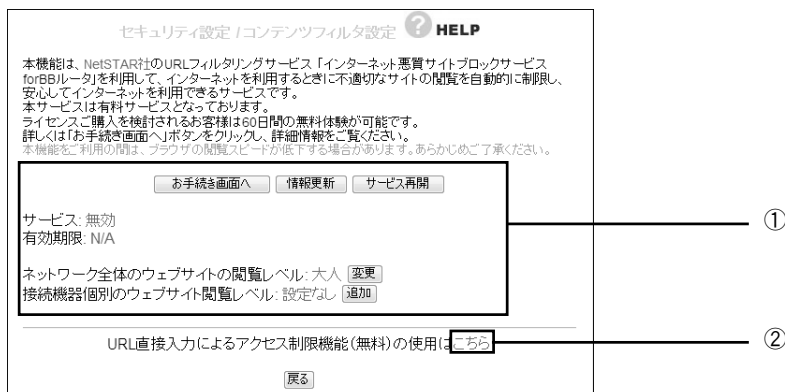
登録されたアクセス制限を表示します。

⑧ [戻る]

「セキュリティ設定」画面(P.75)に戻ります。

■コンテンツフィルタ

ネットスター株式会社が提供する有料サービス「インターネット悪質サイトブロックサービス for BB ルータ」(コンテンツフィルタ)を使用することができます。また、「URL フィルタ」機能も使用することができます。



①コンテンツフィルタ

ネットスター株式会社の「インターネット悪質サイトブロックサービス for BBルータ」を使用して、好ましくないサイトへの接続を自動的にブロックすることができます。本機能の紹介および設定方法は、付属の「コンテンツフィルタリングで安心インターネット」をご覧ください。

②URLフィルタ

「URLフィルタ」画面(P.78)を表示させることができます。



マルチ AP 機能を使ってセカンド SSID でインターネットに接続しているときは、コンテンツフィルタ対象のサイトに接続しても、「コンテンツフィルタによるアクセス制限」画面が表示されません。

○ URL フィルタ

登録した文字列が含まれる URL へのアクセスを制限することができます。

セキュリティ設定 / URLフィルタ ? HELP

説明:

制限するIPアドレス: 192.168.1. ~

URLまたはキーワード

登録

URLフィルタテーブル(最大10まで)

状態	説明	制限するIPアドレス	制限するURL	操作

戻る

① 説明

アクセス制限の説明を付けることができます。

② 制限するIPアドレス

URLフィルタの対象にするパソコンのIPアドレスを範囲指定できます。

③ URLまたはキーワード

アクセスを制限したいURLやキーワードを登録します。
例：violence

④ 【登録】

設定した内容で登録します。

⑤ URLフィルタテーブル(最大10まで)

登録されたURLフィルタを表示します。

⑥ 【戻る】

「セキュリティ設定」画面(P.75)に戻ります。

■スケジュール

本項目で設定した時間帯にアクセス制限を行うことができます。設定した時間帯は「アクセス制限」画面(P.76)で指定して実行してください。

① 名前

スケジュールに任意の名前を付けることができます。
登録した名前が「アクセス制限」画面(P.76)のスケジュールリングに表示されます。

② コメント

任意の説明文を付けることができます。

③ スケジュール

ここで時間帯を設定します。24時間表記で入力します。

・曜日

制限したい曜日の「開始時間」と「終了時間」に数値を入力します。

・開始時間

制限を開始する時間を入力します。

・終了時間

制限を終了する時間を入力します。

④ [登録]

設定した内容で登録します。

⑤ スケジュールテーブル(最大10まで)

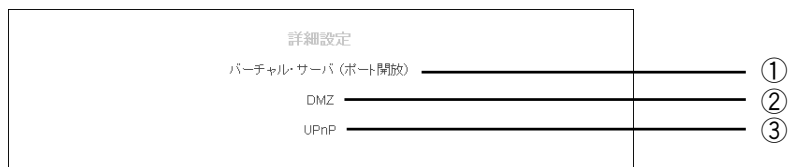
登録されたスケジュールを表示します。

⑥ [戻る]

「セキュリティ設定」画面(P.75)に戻ります。

●詳細設定

本商品の詳細設定ができます。



① バーチャル・サーバ(ポート開放)

インターネットにサーバを公開するなど、インターネットにポートを開放する場合に設定します (P.81)。

② DMZ

UPnPに対応していないソフトウェアや、開放するポートがわからない場合に設定します (P.82)。

③ UPnP

UPnPに対応したソフトウェアを使用する場合に設定します (P.82)。

■バーチャルサーバ（ポート開放）

インターネットにサーバを公開するなど、インターネットにポートを開放する場合に設定します。
設定方法は「ポートを開放するには」（P.32）をご覧ください。

① 接続先

バーチャルサーバ機能を使用するパソコンをリストから選択します。
PCデータベースに登録されたパソコンがリストに表示されます。

② サービス

使用するサービスを選択します。

③ ポート範囲

使用するポートの範囲を入力します。「詳細設定」にチェックを付けると、WAN側とLAN側のポート範囲が入力できます。

④ プロトコル

使用するプロトコルを設定します。

⑤ 備考

サーバの説明を付けることができます。
※空欄のままでも使用できます。

⑥ [登録]

設定した内容で登録します。

⑦ バーチャルサーバリスト

登録した内容を表示します。

⑧ [戻る]

「詳細設定」画面(P.80)に戻ります。



- ・①の接続先で、サーバとなるパソコンが表示されない場合、PCデータベースでサーバとなるパソコンを登録する必要があります。登録方法は「PCデータベース」（P.65）をご覧ください。
- ・パソコンをサーバとして使用するには、パソコン上でサーバソフトを実行している必要があります。
- ・ダイナミックDNSを使用することで、より簡単にWAN側からLAN側のサーバに接続することができます（P.39）。
- ・本商品のWAN側IPアドレスとポート番号を指定したアクセスは、バーチャルサーバ機能によって指定したパソコンにします。同じLAN内で同種類のサーバを使用する場合は、ポート番号が重複しないようにしてください。

■ DMZ

インターネットにサーバを公開するなど、インターネットにポートを開放する場合に設定します。
UPnPに対応していないソフトウェアや、開放するポートがわからない場合に設定します。
「バーチャルサーバ（ポート開放）」（P.81）を使って接続できない場合に使用します。



① DMZホスト

DMZ機能を使用するパソコンを選択します。
PCデータベースに登録されたパソコンがリストに表示されます。



DMZ機能の対象となっているパソコンは、本商品のファイアウォール機能が無効になるため、セキュリティが弱くなります。DMZ機能は必要な場合のみ有効にしてご使用ください。



ダイナミックDNSを使用することで、より簡単にWAN側からLAN側のサーバに接続することができます（P.39）。

② [設定]

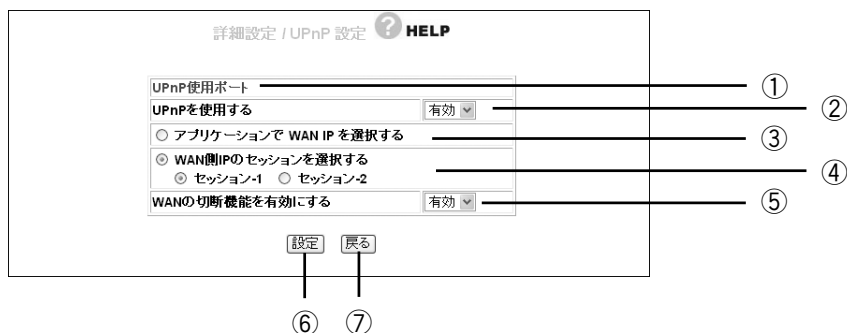
設定した内容を保存します。

③ [戻る]

「詳細設定」画面（P.80）に戻ります。

■ UPnP

UPnPに対応したソフトウェアを使用する場合に設定します。
※ UPnP機能はWindows Vista/XPで使用できます。



① UPnP使用ポート

UPnPで使用しているポートを確認できます（P.83）。

② UPnPを使用する

UPnPの「有効」（初期値）、「無効」を選択します。

③ アプリケーションでWAN IPを選択する

UPnP対応アプリケーションでWAN IPを選択する場合に使用します。
※ PPPoEで接続設定されているときのみ表示されます。

④ WAN側IPのセッションを選択する

手動でUPnPを使用するWAN IP(セッション)を選択する場合に使用します。「セッション-1」または「セッション-2」のどちらかを選択します。

※PPPoEで接続設定されているときのみ表示されます。

⑤ WANの切断機能を有効にする

WAN切断機能を設定します。

・有効

UPnP機能を使用してWAN(インターネット側)を切断することができます。

・無効

WAN切断機能を使用しません。

※PPPoEで接続設定されているときのみ表示されます。

⑥ [設定]

設定した内容を保存します。

⑦ [戻る]

「詳細設定」画面(P.80)に戻ります。

○UPnP 使用ポート

UPnP で使用しているポートを確認できます。



① UPnPポートリスト

使用しているUPnPの内容を表示します。

② [戻る]

「UPnP」画面(P.82)に戻ります。

●管理

本商品のログイン名やパスワードなどを設定できます。

The screenshot shows a management interface with the following elements and callouts:

- ①: 管理者ログイン名 (Admin Login Name) field, currently showing 'root'.
- ②: 管理者ログイン・パスワード (Admin Login Password) field.
- ③: パスワードの確認 (Confirm Password) field.
- ④: IPマスカレード・テーブル保持時間 (IP Masquerade Table Retention Time) field, showing '10' minutes.
- ⑤: 時間設定 (Time Setting) dropdown menu, currently set to '自動設定' (Automatic Setting).
- ⑥: 工場出荷時の状態へ戻す (Return to Factory Default State) button.
- ⑦: 再起動 (Restart) button.
- ⑧: 設定保存 (Save Settings) button.
- ⑨: 設定読み込み (Load Settings) button.
- ⑩: ファームウェア更新 (Firmware Update) button.
- ⑪: リモート (Remote) button.
- ⑫: PINGテスト (PING Test) button.
- ⑬: 設定 (Settings) button.
- ⑭: 取消 (Cancel) button.
- ⑮: 戻る (Back) button.

① 管理者ログイン名

設定画面へのログイン名を変更します(初期値：root)。

② 管理者ログイン・パスワード

設定画面へのログイン・パスワードを設定できます(初期値：空欄)。

③ パスワードの確認

確認のため、再度②で入力したパスワードを入力します。

④ IPマスカレード・テーブル保持時間

IPマスカレードのテーブル保持時間を「0～300」分で設定できます(初期値：10分)。

設定時間を長くすることで、FTPサーバなどへの長時間の接続に対応します。通常のインターネット接続などでは設定する必要はありません。

⑤ 時間設定

本商品の時間設定ができます。

・自動設定

NTPサーバを検出して自動で時刻を設定します。

・手動設定

「年／月／日」の順に設定します。

⑥ 工場出荷時の状態へ戻す

本商品に設定されている内容をすべて工場出荷時(初期値)の状態に戻します(P.48)。

・【実行】

工場出荷時の状態に戻します。



実行する前に設定内容は控えておくことをお勧めします。

⑦ 再起動

【実行】で本商品を再起動します。

⑧ 設定保存

【保存】で現在の設定内容をファイルに保存することができます(P.45)。

⑨ 設定読込

「読込」で保存した設定内容を読み込みます(P.46)。

⑩ ファームウェア更新

「ファームウェア更新」画面(本ページ)を表示します。

⑪ リモート

「リモート」画面(P.86)を表示します。

WAN(インターネット)側から本商品の設定画面を開く場合に設定します。

⑫ PINGテスト

「PINGテスト」画面(P.87)を表示します。

本商品からPINGテストを実行する場合に表示します。

⑬ [設定]

設定した内容を保存します。

⑭ [取消]

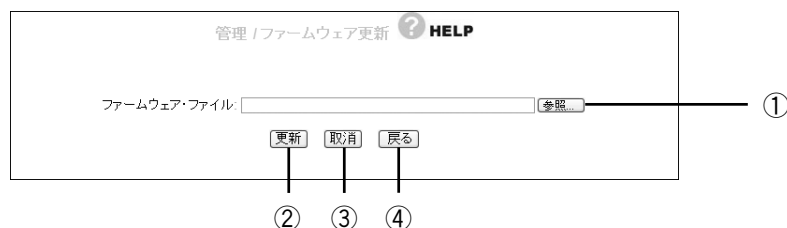
「設定」をクリックする前に限り、変更する前の状態に戻します。

⑮ [戻る]

「トップページ」画面(P.51)に戻ります。

■ファームウェア更新

コレガホームページからダウンロードした最新のファームウェアを本商品に読み込ませることができます。



ファームウェアの更新は、「最新のファームウェアを入手してアップデートしたいときは」(P.43)の手順に従ってください。

① [参照]

ダウンロードしたファームウェアの保存先を選択します。

② [更新]

ファームウェアファイルを選択後、「更新」をクリックするとファームウェアの更新を開始します。



- ・更新中は絶対に本商品の電源を切らないでください。
- ・更新中にブラウザの操作をすると、ファームウェアの更新は中断されます。

③ [取消]

ファームウェアの更新を中断します。

④ [戻る]

「管理」画面(P.84)に戻ります。

■リモート

WAN（インターネット）側から本商品の設定画面を開く場合にあらかじめこの設定をしておきます。

管理 / リモート **HELP**

リモート設定 無効

ポート 9080 (1 ~ 9600)

設定 戻る

① ② ③ ④

① リモート設定

リモート設定の有効／無効を選択します。

- ・有効
WAN側から本商品の設定ができます。
- ・無効
WAN側から本商品の設定はできません(初期値)。

② ポート

リモート設定を有効にした場合に、「1～9600」でポート番号を入力します(初期値：8080)。

③ [設定]

設定した内容を保存します。

④ [戻る]

「管理」画面(P.84)に戻ります。



- ・リモート機能で設定したポート番号は、バーチャルサーバなどでは使用できません。
- ・インターネット側（WAN側）から接続する場合は、次の例のようにIPアドレスの後ろにポート番号を指定します。WAN側のIPアドレスは「ステータス」画面（P.88）で確認できます。

例：http://XX.XX.XX.XX.XX :

ポート番号
本商品の WAN 側の IP アドレス

- ・ダイナミック DNSを使用することで、IP アドレスではなくダイナミック DNS 名で接続することができます (P.39)。

■ PING テスト

本商品に接続しているほかのパソコンが、通信可能な状態かどうか確認するためのテストをします。

① 宛先アドレス

テストを実行するパソコンのIPアドレスを入力します。

② [実行]

①でIPアドレスを入力後、[実行]をクリックするとPINGテストを開始します。

③ 実行結果

PINGテストの結果が表示されます。

■ CableTest

使用しているポートのリンク速度を表示します。

① Ports

WAN、LAN1～4のそれぞれの状態を確認できます。

② Link Type

接続状態を「100Full、100Half、10Full、10Half、Disconnect」で表示します。

③ [More Info]

詳細情報を表示します。

④ [更新]

表示内容を更新します。

●ステータス

本商品のステータスを表示します。

・IP 自動取得 (DHCP) の場合

ステータス ? HELP

ファームウェア・バージョン	Ver. X.XX	
システム稼働時間	18時間0分35秒	
LAN状態	MACアドレス:	XX:XX:XX:XX:XX:XX
	サブネットマスク:	255.255.255.0
	IPアドレス:	192.168.1.1
	DHCP:	有効
	DHCP開始アドレス:	192.168.1.21
	DHCP終了アドレス:	192.168.1.50
無線状態	状態:	無線アクセス有効
	モード:	802.11g
	チャンネル:	自動設定
	MACアドレス:	XX:XX:XX:XX:XX:XX
	ネットワーク名(SSID):	XXXXXXXXXXXX
	セキュリティ:	WPA/WPA2-PSK TKIP/AES
	マルチAP機能:	有効
	BSSID:	XX:XX:XX:XX:XX:XX
	ネットワーク名(SSID):	CG-Guest
	セキュリティ:	無効
WAN状態	MACアドレス:	XX:XX:XX:XX:XX:XX
	WAN:	IP自動取得(DHCP)
	接続時間:	29分46秒
	リース期限:	18時間0分0秒
	ドメイン名:	N.A
	ホスト名:	corega
	IPアドレス:	XXX.XXX.XXX.XXX
	サブネットマスク:	XXX.XXX.XXX.XXX
	ゲートウェイ:	XXX.XXX.XXX.XXX
	DNSサーバ1:	XXX.XXX.XXX.XXX
	DNSサーバ2:	N.A

開放

再取得

更新

①

②

③

①【開放】

WAN側IPアドレスを開放します。

②【再取得】

WAN側IPアドレスを再取得します。

③【更新】

表示している情報を更新します。

・ PPPoE の場合

ステータス ? HELP	
ファームウェア・バージョン	Ver X.XX
システム稼働時間	18時間4分56秒
LAN状態	MACアドレス: XX:XX:XX:XX:XX:XX
	サブネットマスク: 255.255.255.0
	IPアドレス: 192.168.1.1
	DHCP: 有効
	DHCP開始アドレス: 192.168.1.21
	DHCP終了アドレス: 192.168.1.50
無線状態	状態: 無線アクセス有効
	モード: 802.11g
	チャンネル: 自動設定
	MACアドレス: XX:XX:XX:XX:XX:XX
	ネットワーク名(SSID): XXXXXXXXXXXX
	セキュリティ: WPA/WPA2-PSK TKIP/AES
	マルチAP機能: 有効
	BSSID: XX:XX:XX:XX:XX:XX
	ネットワーク名(SSID): CG-Guest
セキュリティ: 無効	
WAN状態	MACアドレス: XX:XX:XX:XX:XX:XX
	WAN1: PPPoE
	アカウント: 未設定です
	状態: 未接続
	WAN2: PPPoE
	アカウント: 未設定です
状態: 未接続	

更新

①

①【更新】

表示している情報を更新します。

■ログ表示

本体のログ情報を表示します。

ステータス / ログ表示 ? HELP	
アタックログ	①
DHCP ログ	②
システム ログ	③
無線アクセス ログ	④
戻る	⑤

【更新】 をクリックすることで最新の情報に書き換えられます。

① アタックログ

DoSアタック*が発生した際に、そのログを保存します。

※インターネットにつながっているパソコンやルータなどに大量の不正なデータを送り、使用不能にさせる不正アクセスの1つです。

② DHCPログ

本商品のDHCPサーバ機能の稼働状況を表示します。

③ システムログ

本商品へのアクセス履歴などを表示します。

④ 無線アクセスログ

本商品への無線アクセス履歴を表示します。

⑤【戻る】

「ステータス」画面(P.88)に戻ります。

MAC アドレスについて

ご契約されているプロバイダやインターネットサービスによっては、インターネットに接続できる機器を事前に申請する必要があります。その場合、ADSL モデムなどに直接接続するネットワーク機器（本商品も含むパソコンなど）の MAC アドレスをプロバイダに事前申請してください。

本商品の WAN 側の MAC アドレスは本体左側面に記載されております。

なお、LAN 側の MAC アドレスについては、設定画面の「ステータス」(P.88) で確認できます。

おことわり

- ・本書は、株式会社コレガが作成したもので、すべての権利を弊社が保有しています。弊社に無断で本書の一部または全部をコピーすることを禁じます。
- ・予告なく本書の一部または全体を修正、変更することがありますがご了承ください。
- ・改良のため商品の仕様を予告なく変更することがありますがご了承ください。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

本商品は国内仕様となっており、外国の規格などには準拠しておりません。日本国外で使用された場合、弊社ではいかなる責任も負いかねます。

Copyright©2007 株式会社コレガ

corega は、株式会社コレガの登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows Vista は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

フレッツは、東日本電信電話株式会社および西日本電信電話株式会社の登録商標です。

その他、この文書に掲載しているソフトウェアおよび周辺機器の名称は各メーカーの商標または登録商標です。

2007 年 4 月 初版
2007 年 10 月 第二版